



無線LAN(Wi-Fi)の利用について

接続方法

以下のSSIDとパスワードで接続してください。

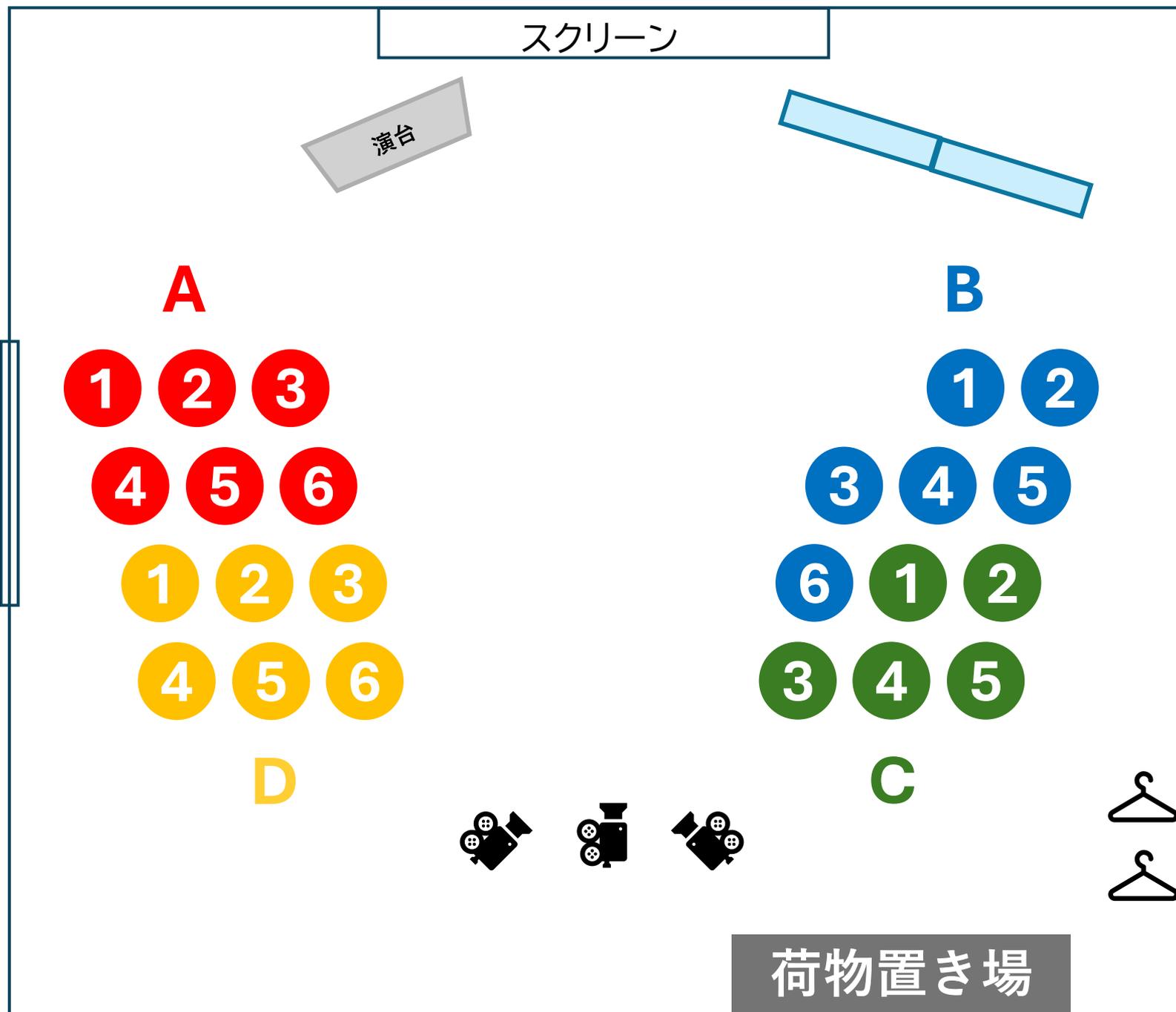
SSID:Setagaya-NewCenter

パスワード:waka5381



会場図

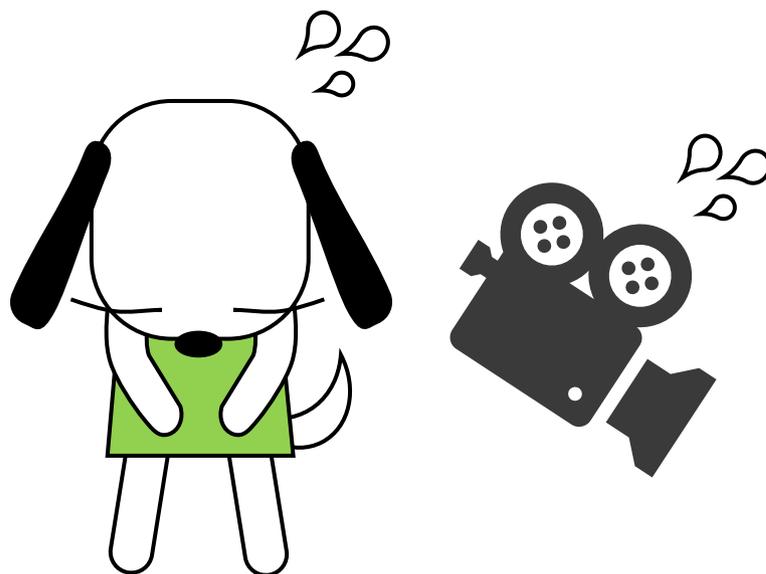
受付



カメラ撮影について

会場の後方にビデオカメラを設置しておりますが、**スクリーンと登壇者のみ撮影**し、動画は2月中旬に一般公開を予定しております。

また、写真につきましても、ご参加いただいた方の**お顔が見えないように撮影**し、世田谷区HP等に掲載させていただきます。



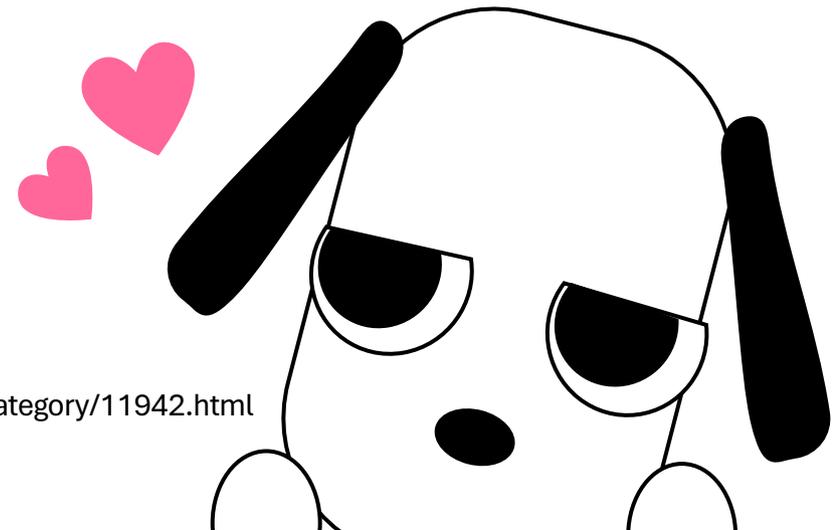
令和7年度 研究活動報告会

参加してみたい **キモチ** をカタチにしよう
— ともに考える地域参加のデザイン —

令和8年1月20日(火)

せたがや自治政策研究所

<https://www.city.setagaya.lg.jp/kuseijouhou/seisaku/category/11942.html>



本日のプログラム

第1部

1-1

開会

13:30~13:45

1-2

せたがや自治政策研究所の研究発表

13:45~14:25

1-3

コメンテーターによる講評・質疑

14:25~15:10

第2部

2-1

グループワーク

15:20~16:25

2-2

総評・閉会

16:25~17:00

コメンテーター

氏名(敬称略)	肩書 せた研や区との関わり
浅川 達人	早稲田大学 人間科学学術院 教授 せたがや自治政策研究所 政策研究員
祐成 保志	東京大学大学院 人文社会系研究科 教授 せたがや自治政策研究所 政策研究員
原田 謙	実践女子大学 人間社会学部 人間社会学科 教授 せたがや自治政策研究所 政策研究員
保坂 展人	世田谷区長

せたがや自治政策研究所ってどんなところ？

組織名	せたがや自治政策研究所（通称：せた研）
所在地	〒154-0023 東京都世田谷区若林5-38-1 世田谷区教育総合センター 2階
設置	2007年4月（政策経営部 政策研究・調査課内）
目的	政策形成基盤の強化
所掌	区の政策及び施策の調査研究に関すること 区の政策及び施策の提言に関すること
構成員	所長、次長、主任研究員、研究員、特別研究員 8名（2025年4月1日現在）



せた研マスコット
「せたけん」

4つの役割

第1の役割

政策研究

全庁的な政策課題や専門的で重要な課題を解決する研究を行う。

第2の役割

基礎研究

区政に影響を及ぼすと思われる課題の解決のための研究を行う。

第3の役割

データの整備と活用

区の課題解決に資する具体的な政策を提言する。

第4の役割

政策提言

区の課題解決に資する具体的な政策を提言する。

取り組み例①

次期コミュニティ調査検討会

次期調査に向けた調査項目や調査手法などの検討

2024地域生活とコミュニティに関する調査研究会

コミュニティ施策へ資する知見を得ることを目的とした調査分析

	2009年	2021年	2024年
調査名	地域の生活課題と住民力に関する調査	地域生活とコミュニティに関する調査	地域生活とコミュニティに関する調査
対象	20歳以上75歳未満の区民	30歳以上75歳未満の区民	18歳以上85歳未満の区民
サンプル	10,000人	2,500人	12,000人
時期	2009年9月	2021年7月	2024年10月

取り組み例②

自治制度研究会

自治体経営の基盤強化を図るため、
区民に最も身近な基礎的自治体として、
人口規模にふさわしい自治のあり方を研究する。

自治権拡充のケーススタディとして、
令和2年に東京都より移管された、児童相談所を対象とする。

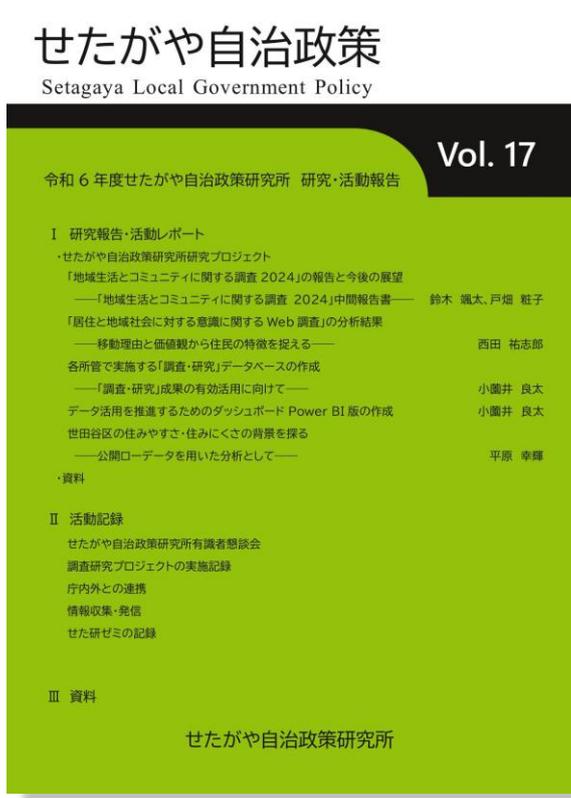


有識者懇談会

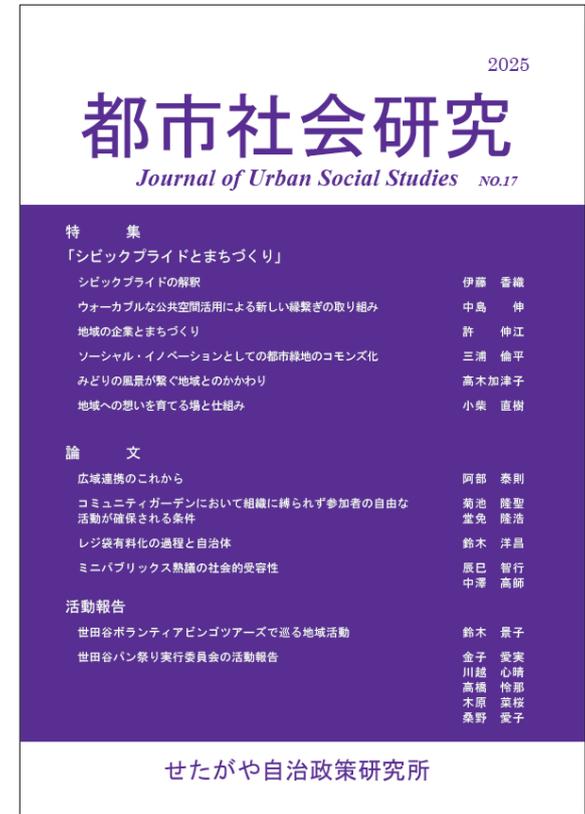
せた研が行う調査及び研究等に関し、政策研究員から
指導及び助言をいただく場として、単年度に2回開催。



取り組み例③



せたがや自治政策
研究所の研究成果や活動
内容をまとめた報告書
[区HP](#)に掲載



都市社会研究
年 1 回発行の学術機関誌
[区HP](#)に掲載

取り組み例④

せた研ニューズレター 「SETAKEN NEWS」の発行

せた研の活動や研究内容をタイムリーで紹介

[区HP](#)に掲載



SETAKEN NEWS No.54

ダッシュボード公開

世田谷区の人口や世帯状況を簡単にグラフ化

[区HP](#)に掲載



学会等への参加

- ・ 特別区シンクタンク交流会（7月15日）
- ・ 自治体学会長野大会（8月22日 - 23日）
- ・ 地方行政実務学会全国大会（9月6日 - 7日）
- ・ 自治体シンクタンク研究交流会議（11月6日 - 7日）



2025自治体学会長野大会分科会

取り組み例⑤

せたがや版データアカデミー

庁内職員を対象とした
EBPM・データ活用講座
9月～1月 計5回

せた研ゼミ

職員の政策形成能力の向上を目的に、
職員同士で議論できるオープンな場として実施。

せたがや自治政策研究所presents
**せたがや版
データアカデミー**
～「なんとなく」から根拠ある提案へ～

「せたアカ」では、互学互励の精神のもと
研究所職員が講師となり、講義と演習を通して
EBPM（橋本市民の政策形成）の考え方や
データを活用した政策形成の手法を学びます。
計画策定、政策・施策・事業の立案、業務改善など
実務において活用できることを目指します。

第1回
9/22(月)
13:30～17:00

場所 教育総合センター 研修室3(3F)
内容 基礎講座「EBPMから自治体行政の可能性」
講師 大杉亮氏(せたがや自治政策研究所所長
/東京都立大学法政学部教授)

第2回 10月16日(木) 13:30～17:00
第3回 11月14日(金) 13:30～17:00
第4回 12月15日(月) 13:30～17:00
第5回 1月30日(金) 13:30～17:00

※詳細は募集要項
※場所はいつでも教育総合センターです

こんな人に受講がオススメ!

- 業務改善や政策立案にデータを活かしたい!
- そもそもデータの扱い方を知りたい!
- 世田谷区のコミュニティの実態を知りたい!

【問合せ先】政策経営部政策研究・調査課政策研究担当 小藤井・内海 ☎03-6543-1543

講座名	講師	時期
自治体職員の文章術 ～「調べる」「考える」職員の育成～	大杉所長	5月～ 全6回
自治体職員の調べ方入門 ～探す・読み取る・聞き取る・分析する技術～	鈴木 特別研究員	7月～ 全5回
現役部長が伝授!“考える力”が仕事を変える 仮説思考法	有馬 政策経営部長	10月
ゼロから始める統計分析	西田研究員	12月



取り組み例⑥

庁内調査研究データベース更新

令和6年度作成した
 庁内共有データベースの更新（63種）

区分	1-1. 調査	1-2. 更新	2. 調査項目	3. 調査研究の種別	4. 更新内容(備考) (該当するものを全て選択)
1	政策研究部	施策の推進	世帯別政策意識調査2024	世帯が政策に対してどのような意見を、意識を持っているかを把握し、今後の政策をめぐって今後の施策資料としている。	1,2,3,4,5,6,7
2	政策研究部	施策の推進	世帯別政策意識調査2023	世帯が政策に対してどのような意見を、意識を持っているかを把握し、今後の政策をめぐって今後の施策資料としている。	1,2,3,4,5,6,7
3	政策研究部	施策の推進	世帯別政策意識調査2022	世帯が政策に対してどのような意見を、意識を持っているかを把握し、今後の政策をめぐって今後の施策資料としている。	1,2,3,4,5,6,7
4	政策研究部	施策の推進	世帯別政策意識調査2021	世帯が政策に対してどのような意見を、意識を持っているかを把握し、今後の政策をめぐって今後の施策資料としている。	1,2,3,4,5,6,7
5	政策研究部	施策の推進	世帯別政策意識調査2020	世帯が政策に対してどのような意見を、意識を持っているかを把握し、今後の政策をめぐって今後の施策資料としている。	1,2,3,4,5,6,7
6	政策研究部	施策の推進	世帯別政策意識調査2019	世帯が政策に対してどのような意見を、意識を持っているかを把握し、今後の政策をめぐって今後の施策資料としている。	1,2,3,4,5,6,7
7	政策研究部	施策の推進	定款モニター	定款変更の発生とすまために、準備した定款へアンケート等をあて、定款に対する意見、要望等を把握。	1,2,3,4,5,6,7
8	政策研究部	施策の推進	定款モニター	定款変更の発生とすまために、準備した定款へアンケート等をあて、定款に対する意見、要望等を把握。	1,2,3,4,5,6,7

研究所の蔵書管理・貸出アプリ開発

庁内公開サイトにて公開中!!



所内勉強会

研究テーマに係る勉強会を随時開催

- ・ 論文レジュメの作成方法（シビックプライドをテーマに）
- ・ 『自治体アンケート調査ハンドブック』（自治体調査支援委員会 編2025）読書会
- ・ 統計分析に関する基礎知識

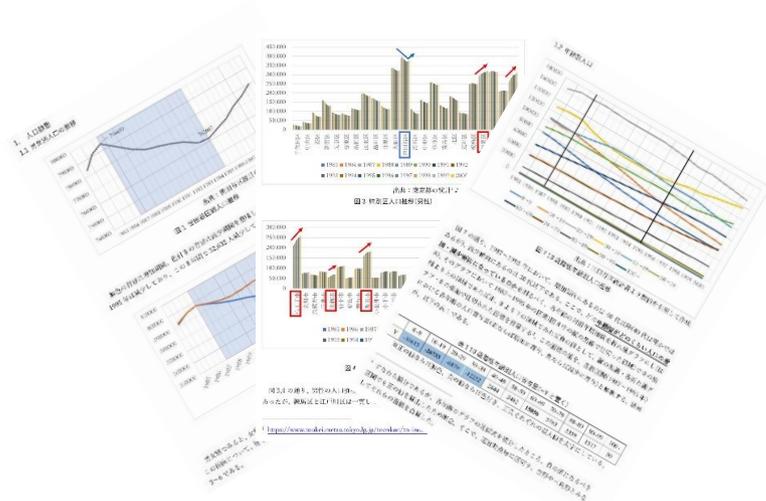


取り組み例⑦

所管支援

各所管からの相談等に随時対応

- ・ 区内の戦争孤児の人数の推定（保健福祉政策課）
- ・ 将来人口に係る人口増減要因分析（保育課、政策企画課）
- ・ バブル期以降の人口減少要因分析（住宅課）
- ・ インクルーシブ教育施策に係る調査票作成（支援教育課）
- ・ 地域生活とコミュニティに関する調査2024の分析（官民連携担当課）
- ・ 人流データ分析システム操作説明会



人流分析システム
(KDDI Location Analyzer) 説明会

せたがや自治政策研究所
<https://www.city.setagaya.lg.jp/kuseyohou/seisaku/11942.html>

せたがや自治政策研究所マスコット「せたけん」

せたがや自治政策研究所の研究発表

地域活動参加者/非参加者の属性把握と
地域活動への参加につながる要因の探索

研究員 西田 祐志郎

世田谷区民の町会・自治会の認知と
加入認識

特別研究員 鈴木 颯太

世田谷区におけるコミュニティ・
モラルの傾向に関する分析

主任研究員 堀江 博昭

地域活動参加者/非参加者の属性把握と 地域活動への参加につながる要因の探索

— 「地域生活とコミュニティに関する調査2024」の調査結果を基に—

せたがや自治政策研究所研究員
西田 祐志郎

目次

1

本研究に至る背景と目的

2

研究にあたって

「地域生活とコミュニティに関する調査2024」概要 /
区全体と標本の構成比較 / 分析対象となる層の分け方

3

各層の基礎属性の把握

地域活動別の各層の構成比 / クロス集計結果

4

地域活動参加の要因の探索

分析手法について /
ロジスティック回帰分析でオッズ比に有意差が出た変数

1

本研究に至る背景と目的



区民生活について

人とのつながりの希薄化や町会・自治会への加入率低下が進む中、コロナ禍の長期化による地域コミュニティの分断への追い打ちで、社会的な孤立や孤独が大きな問題に。

区政が目指すべき方向性

豊富な地域人材・地域資源との連携強化により参加と協働のさらなる促進を図りながら、あらゆる世代が安心して住み続けられるまちづくりを！
自ら地域をつくり支える存在として区民を位置づけ、参加意欲を引き出すコミュニティづくりへ！

…基本方針の一つである「参加と協働」の推進に資するため、

- 地域活動に参加する層/しない層の属性を把握し、その特徴を捉える。
- 各層を比較し、地域活動参加の要因を探索する。

2

研究にあたって～用いた標本の概要～

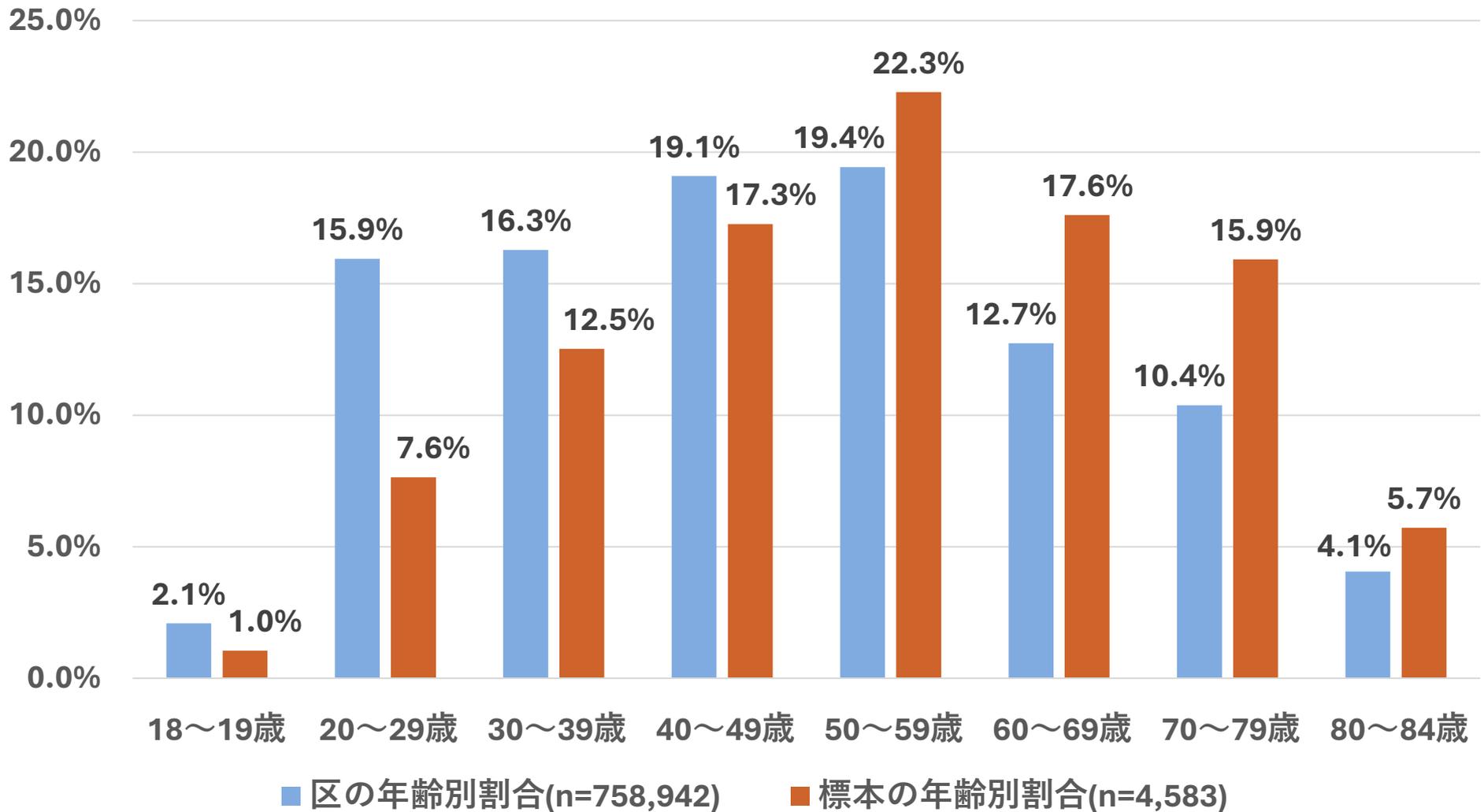
地域生活とコミュニティに関する調査2024

調査目的	地域社会における人との関わりと地域活動の実態の把握
調査期間	2024年10月1日～10月30日
対象者	2024年8月1日時点で住民基本台帳に登録されている18歳以上85歳未満の世田谷区民12,000名（外国籍含む）
有効回答数（率）	4,614件（38.4%）
抽出方法	単純無作為抽出
調査方法	郵送法 （調査票を対象者宅へ郵送で配布・回収する方法）
設問数	55問

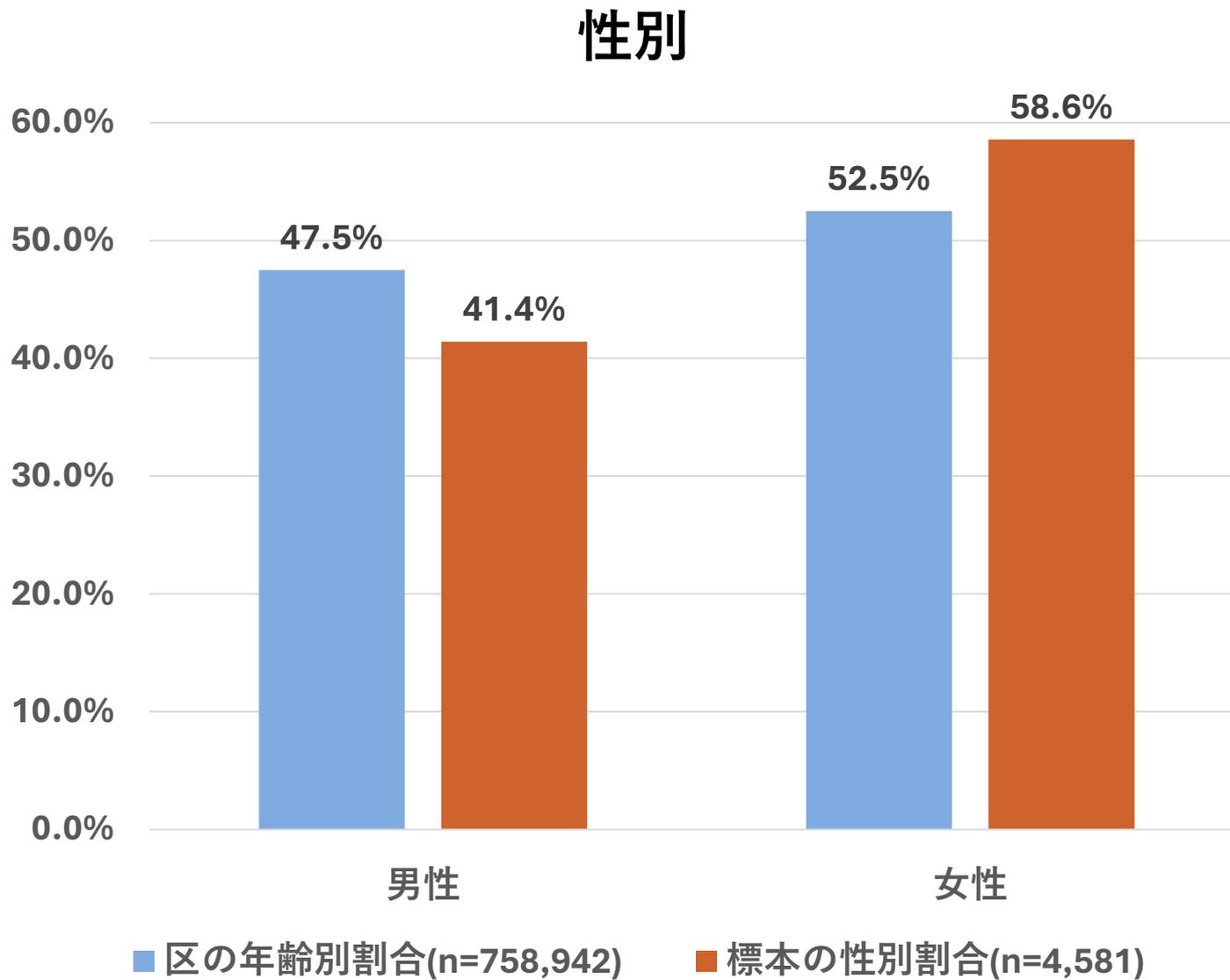
2

研究にあたって～区全体と標本の構成比較～

年齢（10歳毎）



※区の人口は、2024年8月1日時点の住民基本台帳を基に作成。



※区の人口は、2024年8月1日時点の住民基本台帳を基に作成。

2 研究にあたって～分析対象となる層の分け方～

問20「あなたは、次にあげる(a)～(h)^{*}のお住まいのまちの活動をどの程度参加していますか。」

問21「今後、あなたは次にあげる(a)～(h)のお住まいのまちの活動に参加したいと思いますか。」

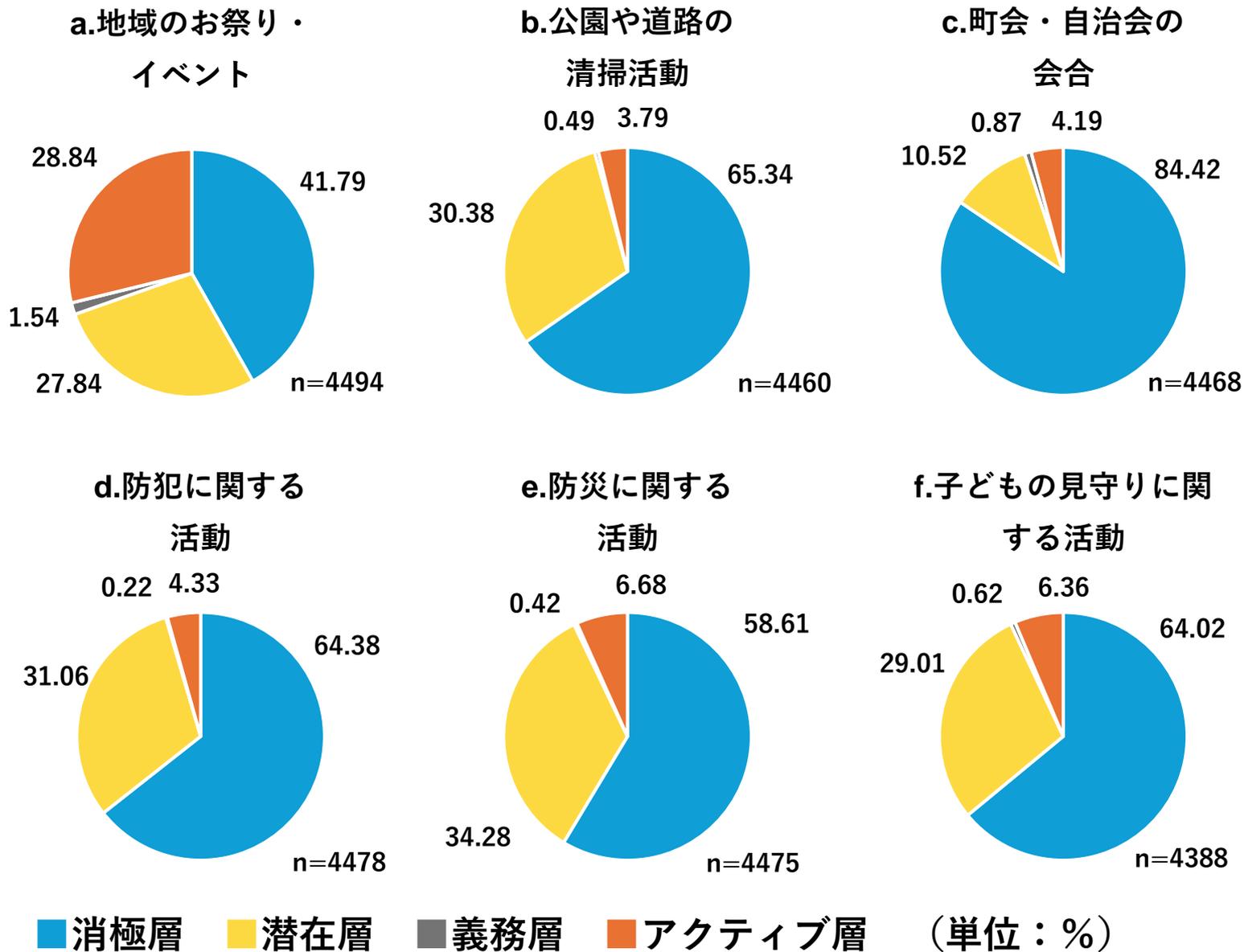
4択の選択肢を2択にまとめ、2×2の4つのグループに分ける。

問20(行動)		必ず参加する	できるだけ参加する	あまり行かない	行ったことがない
		参加する		参加しない	
問21(意欲)	参加したい	アクティブ層		潜在層	
	できるだけ参加したい				
問21(意欲)	あまり参加したくない	義務層		消極層	
	参加したくない				

※(a)地域のお祭り・イベント (b)公園や道路の清掃活動 (c)町会・自治会の会合 (d)防犯に関する活動
 (e)防災に関する活動 (f)子どもの見守りに関する活動 (g)国政選挙の投票 (h)地方選挙の投票
 このうち、本研究では(a)～(f)を対象とする。

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別4層構成比～



※nが異なるのは、a～fの各設間で欠損値の度数が異なるため。

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計～

a.地域のお祭り・イベント	18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~84歳	合計度数
消極層	0.75%	▼5.68%	▼8.41%	▼12.38%	23.63%	△22.29%	△19.72%	△7.13%	1866
潜在層	1.36%	△12.52%	14.04%	17.17%	24.32%	16.53%	▼11.48%	▼2.57%	1246
義務層	2.90%	▼1.45%	8.70%	17.39%	28.99%	17.39%	17.39%	5.80%	69
アクティブ層	1.09%	6.62%	△18.15%	△25.62%	▼19.24%	▼12.07%	▼13.32%	▼3.89%	1284
全体	1.05%	7.79%	12.79%	17.60%	22.64%	17.67%	15.54%	4.90%	4465

※一例として掲載

4層 × 年齢

4層 × 性別

4層 × 世帯構成

× a~fの地域活動 = 18のクロス集計

※各クロス集計結果は配布資料参照

3パターン

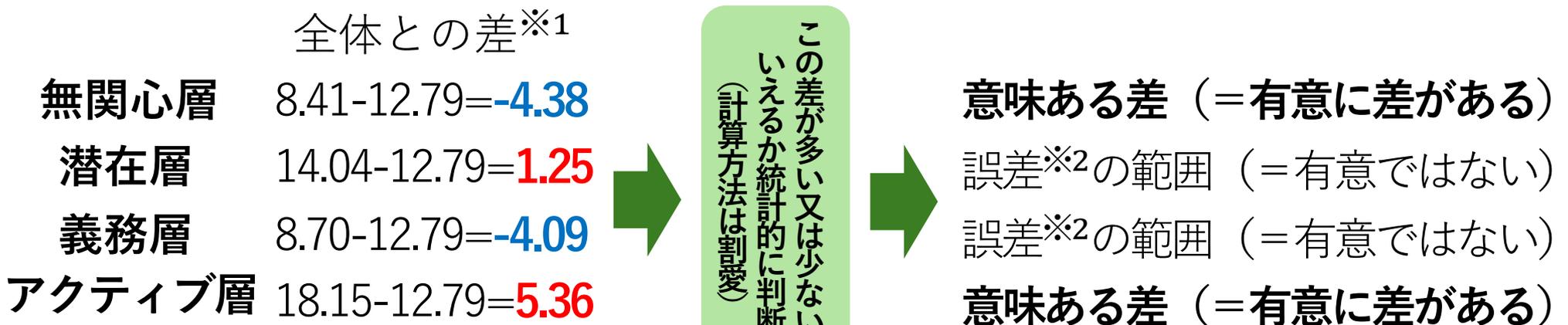
6種

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計～

a.地域のお祭り・イベント	18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~84歳	合計度数
消極層	0.75%	▼5.68%	▼8.41%	▼12.38%	23.63%	△22.29%	△19.72%	△7.13%	1866
潜在層	1.36%	△12.52%	14.04%	17.17%	24.32%	16.53%	▼11.48%	▼2.57%	1246
義務層	2.90%	▼1.45%	8.70%	17.39%	28.99%	17.39%	17.39%	5.80%	69
アクティブ層	1.09%	6.62%	△18.15%	△25.62%	▼19.24%	▼12.07%	▼13.32%	▼3.89%	1284
全体	1.05%	7.79%	12.79%	17.60%	22.64%	17.67%	15.54%	4.90%	4465

△▼の解釈の仕方（残差分析）～赤枠を例に～



※1：厳密には、割合の値ではなく度数で計算する。

※2：ここでは、統計学で用いる「誤差」の意味ではなく一般的な用法として用いている。

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計(年齢)～

a.地域のお祭り・イベント	18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~84歳	合計度数
消極層	0.75%	▼5.68%	▼8.41%	▼12.38%	23.63%	△22.29%	△19.72%	△7.13%	1866
潜在層	1.36%	△12.52%	14.04%	17.17%	24.32%	16.53%	▼11.48%	▼2.57%	1246
義務層	2.90%	▼1.45%	8.70%	17.39%	28.99%	17.39%	17.39%	5.80%	69
アクティブ層	1.09%	6.62%	△18.15%	△25.62%	▼19.24%	▼12.07%	▼13.32%	▼3.89%	1284
全体	1.05%	7.79%	12.79%	17.60%	22.64%	17.67%	15.54%	4.90%	4465

b.公園や道路の清掃活動	18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~84歳	合計度数
消極層	1.21%	△8.76%	12.90%	17.24%	▼20.83%	17.97%	△16.10%	5.00%	2900
潜在層	0.82%	6.71%	14.02%	18.72%	△27.67%	17.67%	▼11.56%	▼2.83%	1341
義務層	0.00%	0.00%	4.55%	18.18%	18.18%	13.64%	△31.82%	13.64%	22
アクティブ層	0.60%	▼2.38%	▼3.57%	16.07%	17.86%	14.88%	△27.38%	△17.26%	168
全体	1.06%	7.85%	12.84%	17.65%	22.77%	17.74%	15.23%	4.85%	4431

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計(年齢)～

c.町会・自治会の 会合	18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~84歳	合計度数
消極層	△1.23%	△8.35%	△13.72%	17.85%	22.68%	17.35%	▼14.49%	▼4.32%	3747
潜在層	0.21%	7.07%	10.71%	19.91%	25.48%	17.34%	15.20%	4.07%	467
義務層	0.00%	0.00%	2.63%	▼5.26%	21.05%	△36.84%	23.68%	10.53%	38
アクティブ層	0.00%	▼0.53%	▼2.14%	▼9.63%	▼16.04%	22.46%	△31.02%	△18.18%	187
全体	1.06%	7.82%	12.82%	17.62%	22.69%	17.73%	15.34%	4.93%	4439

d.防犯に 関する活動	18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~84歳	合計度数
消極層	△1.36%	△8.62%	△13.53%	17.61%	22.11%	▼16.74%	15.10%	4.92%	2867
潜在層	▼0.58%	6.67%	12.75%	18.12%	24.42%	△20.00%	14.20%	▼3.26%	1380
義務層	0.00%	0.00%	0.00%	10.00%	10.00%	40.00%	30.00%	10.00%	10
アクティブ層	0.00%	▼3.65%	▼2.08%	15.10%	19.27%	15.10%	△28.13%	△16.67%	192
全体	1.06%	7.78%	12.77%	17.64%	22.68%	17.73%	15.42%	4.92%	4449

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計(年齢)～

e.防災に関する活動	18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~84歳	合計度数
消極層	1.30%	△8.93%	△13.77%	17.68%	21.97%	▼16.60%	14.65%	5.10%	2608
潜在層	0.72%	6.76%	12.93%	18.24%	△24.93%	19.03%	14.17%	▼3.22%	1524
義務層	0.00%	0.00%	5.26%	10.53%	5.26%	31.58%	△36.84%	10.53%	19
アクティブ層	0.68%	▼3.39%	▼4.07%	14.92%	18.98%	19.66%	△26.78%	△11.53%	295
全体	1.06%	7.78%	12.80%	17.66%	22.72%	17.70%	15.38%	4.90%	4446

f.子どもの見守りに関する活動	18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~84歳	合計度数
消極層	1.14%	△9.19%	▼11.58%	▼15.15%	22.23%	△18.66%	△16.58%	△5.47%	2798
潜在層	1.11%	▼6.60%	△17.01%	19.24%	22.10%	17.17%	13.67%	▼3.10%	1258
義務層	0.00%	0.00%	▼0.00%	△33.33%	△48.15%	7.41%	3.70%	7.41%	27
アクティブ層	0.00%	▼1.45%	▼7.97%	△36.96%	△28.26%	▼10.51%	▼10.51%	4.35%	276
全体	1.06%	7.89%	12.85%	17.83%	22.73%	17.64%	15.28%	4.73%	4359

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計(性別)～

a.地域のお祭り・イベント	男性	女性	合計度数
消極層	▼43.93%	△56.07%	1862
潜在層	41.72%	58.28%	1244
義務層	37.68%	62.32%	69
アクティブ層	△37.58%	▼62.42%	1288
全体	41.38%	58.62%	4463

c.町会・自治会の会合	男性	女性	合計度数
消極層	▼40.43%	△59.57%	3745
潜在層	△47.42%	▼52.58%	466
義務層	51.28%	48.72%	39
アクティブ層	43.85%	56.15%	187
全体	41.40%	58.60%	4437

b.公園や道路の清掃活動	男性	女性	合計度数
消極層	△43.23%	▼56.77%	2894
潜在層	▼36.80%	△63.20%	1345
義務層	45.45%	54.55%	22
アクティブ層	41.67%	58.33%	168
全体	41.23%	58.77%	4429

d.防犯に関する活動	男性	女性	合計度数
消極層	△43.38%	▼56.62%	2863
潜在層	▼36.47%	△63.53%	1382
義務層	50.00%	50.00%	10
アクティブ層	43.75%	56.25%	192
全体	41.26%	58.74%	4447

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計(性別)～

e.防災に関する活動	男性	女性	合計度数
消極層	△44.12%	▼55.88%	2604
潜在層	▼36.24%	△63.76%	1526
義務層	42.11%	57.89%	19
アクティブ層	42.57%	57.43%	296
全体	41.30%	58.70%	4445

f.子どもの見守りに関する活動	男性	女性	合計度数
消極層	△43.16%	▼56.84%	2792
潜在層	39.67%	60.33%	1263
義務層	▼22.22%	△77.78%	27
アクティブ層	▼32.00%	△68.00%	275
全体	41.31%	58.69%	4357

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計(世帯構成)～

a.地域のお祭り・イベント	1人暮らし	夫婦2人	夫婦と子ども	一人親世帯	3世代世帯 (親と子と孫)	その他	合計度数
消極層	△23.02%	△29.81%	▼29.49%	4.75%	▼4.38%	△8.55%	1872
潜在層	△23.07%	28.22%	▼32.15%	4.42%	4.34%	7.80%	1244
義務層	15.94%	24.64%	46.38%	2.90%	8.70%	1.45%	69
アクティブ層	▼8.94%	▼21.37%	△53.30%	▼2.87%	△7.15%	▼6.37%	1287
全体	18.87%	26.86%	37.34%	4.09%	5.23%	7.60%	4472

b.公園や道路の清掃活動	1人暮らし	夫婦2人	夫婦と子ども	一人親世帯	3世代世帯 (親と子と孫)	その他	合計度数
消極層	△20.59%	26.80%	▼34.91%	△4.76%	5.00%	7.93%	2899
潜在層	▼15.70%	26.59%	△42.52%	▼3.11%	5.04%	7.04%	1350
義務層	4.55%	22.73%	54.55%	4.55%	13.64%	0.00%	22
アクティブ層	17.47%	27.71%	36.75%	2.41%	△9.04%	6.63%	166
全体	18.91%	26.75%	37.39%	4.17%	5.21%	7.57%	4437

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計(世帯構成)～

c. 町会・自治会の 会合	1人暮らし	夫婦2人	夫婦と子ども	一人親世帯	3世代世帯 (親と子と孫)	その他	合計度数
消極層	△19.53%	26.48%	37.35%	4.18%	▼4.85%	7.62%	3754
潜在層	▼15.17%	25.21%	△42.31%	4.06%	5.98%	7.26%	468
義務層	12.82%	△41.03%	33.33%	0.00%	2.56%	10.26%	39
アクティブ層	16.22%	△35.68%	▼27.03%	4.32%	△10.81%	5.95%	185
全体	18.87%	26.86%	37.40%	4.14%	5.20%	7.53%	4446

d. 防犯に 関する活動	1人暮らし	夫婦2人	夫婦と子ども	一人親世帯	3世代世帯 (親と子と孫)	その他	合計度数
消極層	△20.70%	26.18%	▼36.04%	△4.71%	▼4.67%	7.70%	2869
潜在層	▼16.16%	27.56%	△40.33%	▼2.96%	5.63%	7.36%	1386
義務層	10.00%	30.00%	30.00%	△20.00%	0.00%	10.00%	10
アクティブ層	▼13.16%	30.00%	36.32%	3.68%	△10.00%	6.84%	190
全体	18.95%	26.78%	37.37%	4.15%	5.19%	7.56%	4455

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計(世帯構成)～

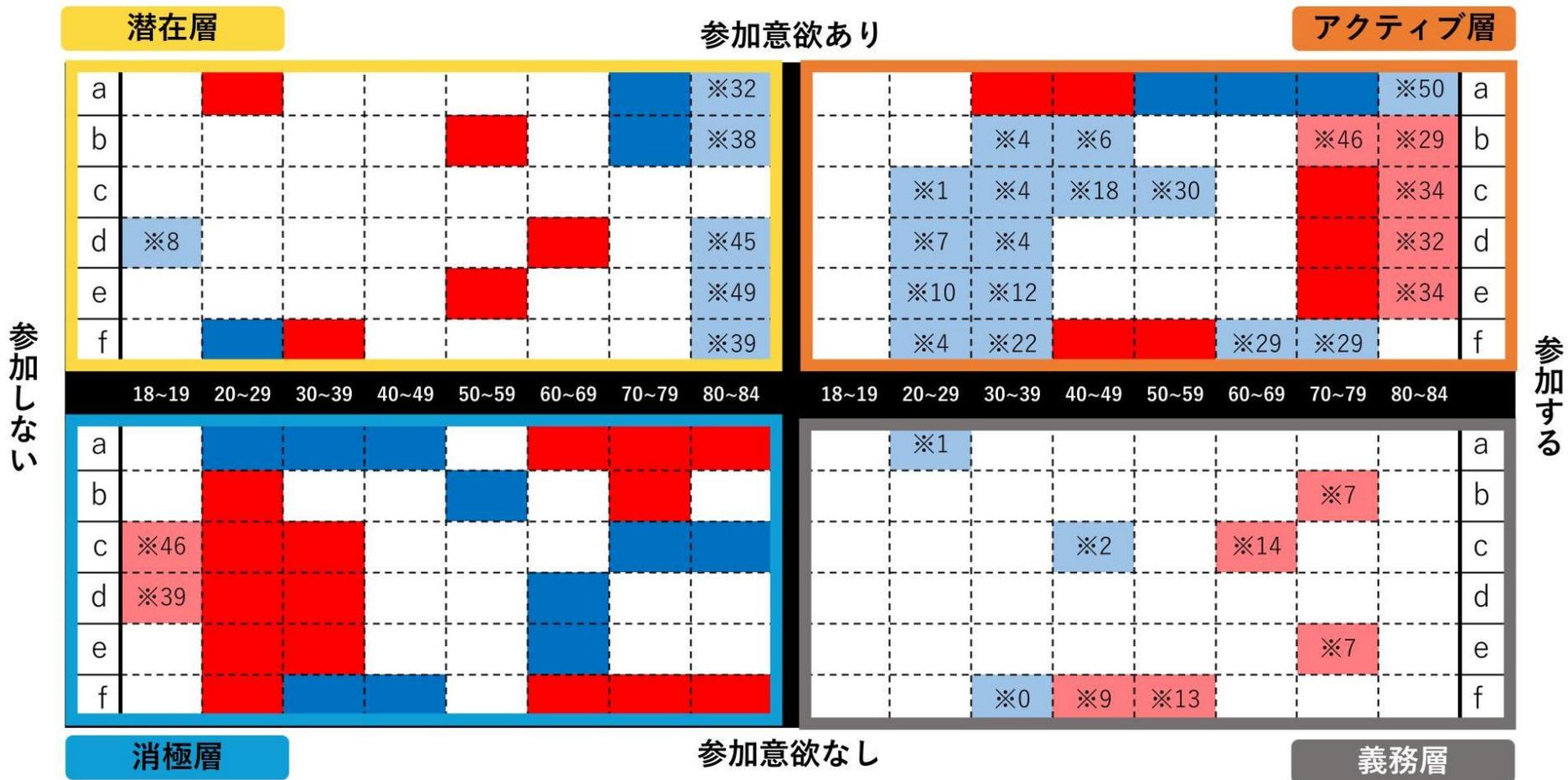
e.防災に関する活動	1人暮らし	夫婦2人	夫婦と子ども	一人親世帯	3世代世帯 (親と子と孫)	その他	合計度数
消極層	△21.15%	▼25.56%	▼36.13%	△4.75%	4.67%	7.74%	2610
潜在層	▼16.15%	28.32%	△39.57%	3.34%	5.43%	7.19%	1529
義務層	11.11%	44.44%	33.33%	0.00%	11.11%	0.00%	18
アクティブ層	▼13.90%	30.17%	37.29%	3.05%	△8.14%	7.46%	295
全体	18.91%	26.89%	37.38%	4.13%	5.19%	7.50%	4452

f.子どもの見守りに関する活動	1人暮らし	夫婦2人	夫婦と子ども	一人親世帯	3世代世帯 (親と子と孫)	その他	合計度数
消極層	△23.07%	△29.05%	▼29.94%	△4.69%	▼4.30%	△8.95%	2792
潜在層	▼13.42%	▼23.84%	△47.36%	3.39%	5.92%	▼6.08%	1267
義務層	▼0.00%	18.52%	△62.96%	0.00%	△14.81%	3.70%	27
アクティブ層	▼2.87%	▼12.19%	△69.89%	2.87%	△11.11%	▼1.08%	279
全体	18.83%	26.39%	37.75%	4.17%	5.27%	7.58%	4365

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計結果～

残差分析による有意差の4ブロッククロスヒートマップ（年齢別）



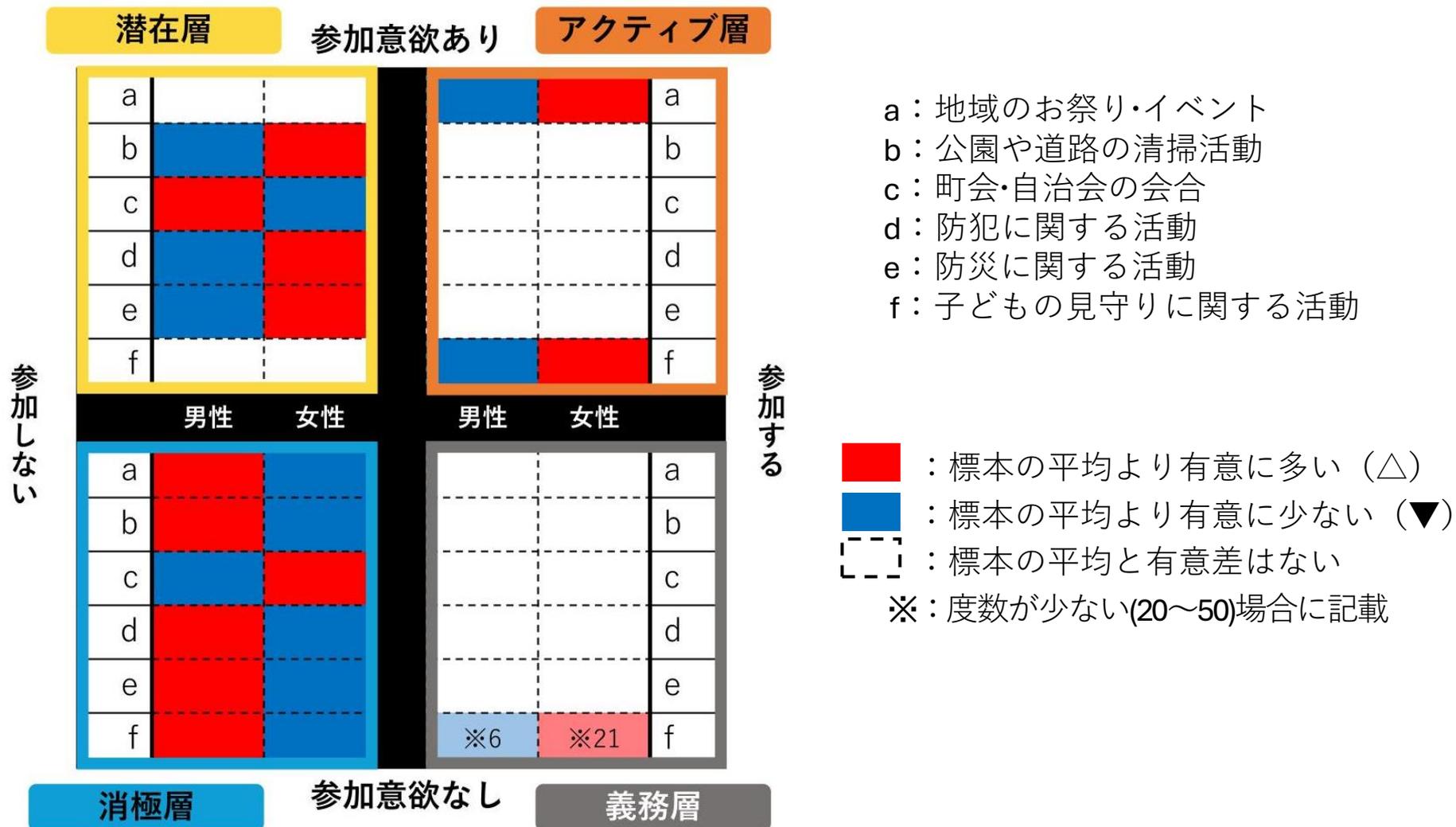
- a : 地域のお祭り・イベント
- b : 公園や道路の清掃活動
- c : 町会・自治会の会合
- d : 防犯に関する活動
- e : 防災に関する活動
- f : 子どもの見守りに関する活動

■ : 標本の平均より有意に多い (△)
■ : 標本の平均より有意に少ない (▼)
 : 標本の平均と有意差はない
 ※ : 度数が少ない(20~50)場合に記載

3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計結果～

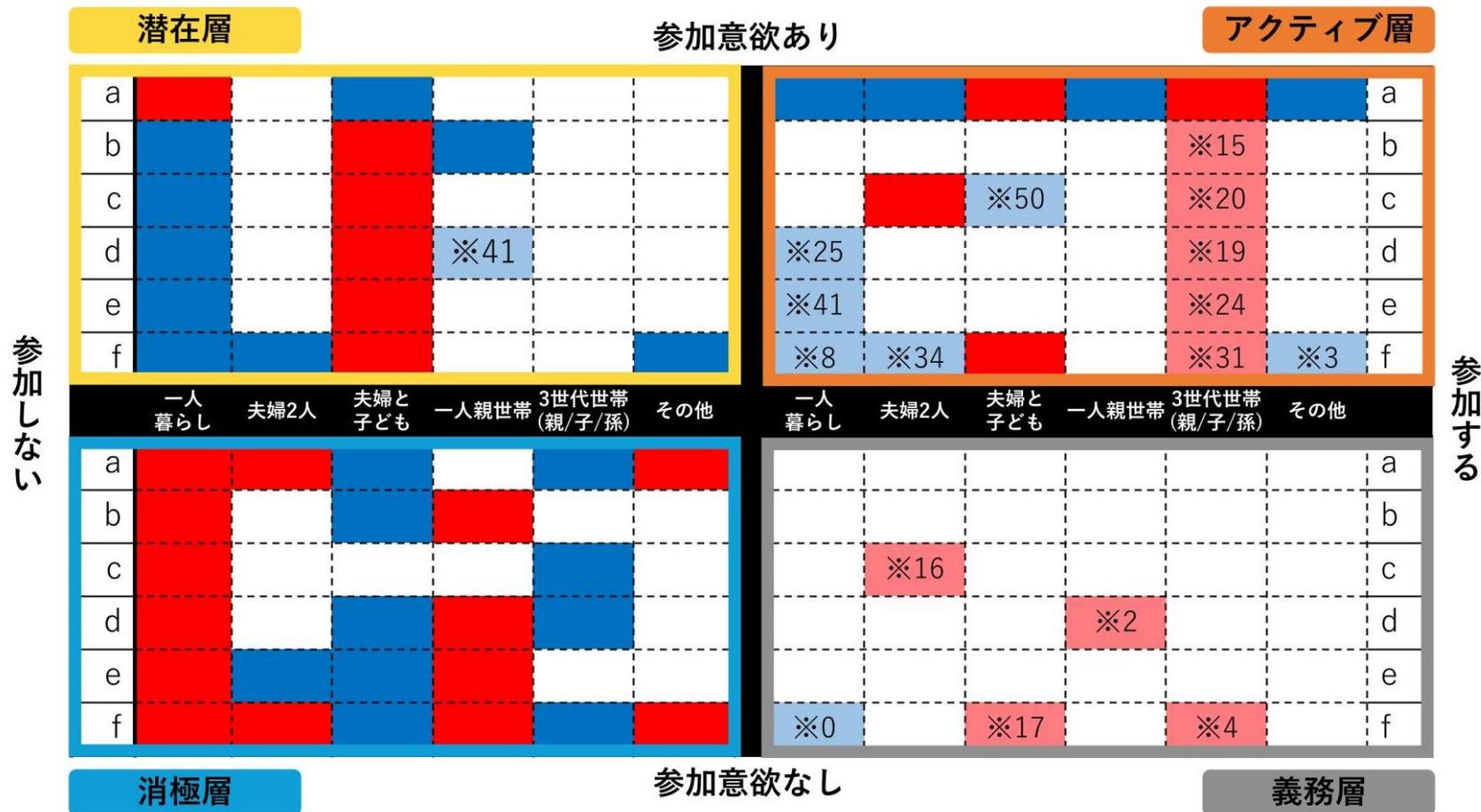
残差分析による有意差の4ブロッククロスヒートマップ（性別）



3

各層の基礎属性の把握～地域活動別クロス集計結果～

残差分析による有意差の4ブロッククロスヒートマップ（世帯構成別）



- a : 地域のお祭り・イベント
- b : 公園や道路の清掃活動
- c : 町会・自治会の会合
- d : 防犯に関する活動
- e : 防災に関する活動
- f : 子どもの見守りに関する活動

- : 標本の平均より有意に多い (△)
- : 標本の平均より有意に少ない (▼)
- : 標本の平均と有意差はない
- ※ : 度数が少ない(20~50)場合に記載

3

各層の基礎属性の把握まとめ～残差分析の結果から～

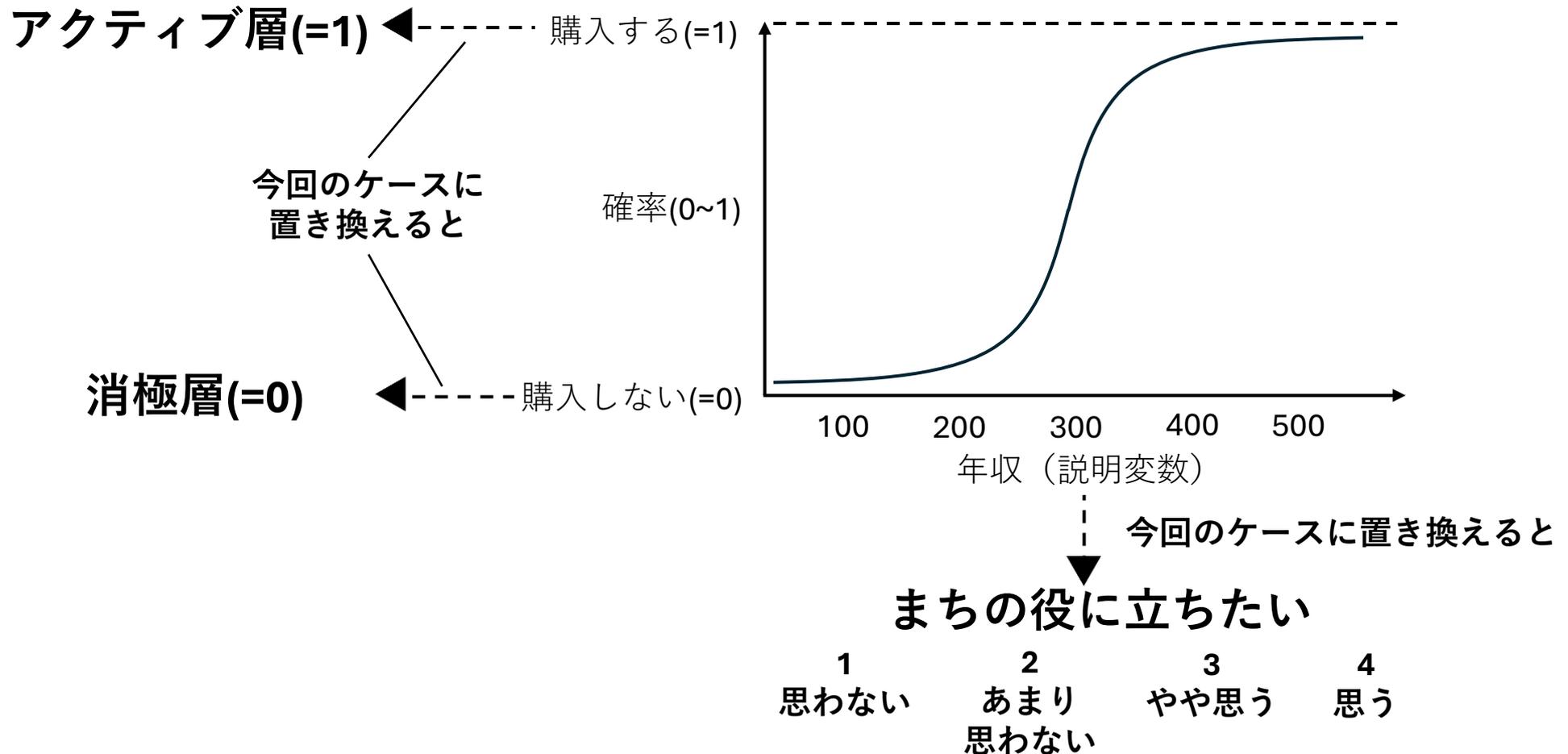
	アクティブ層	潜在層	消極層
年齢	70代以降が多い傾向	特徴や傾向は見られず	20～30代が多い傾向
性別	特徴や傾向は見られず	女性の方が多い傾向	男性の方が多い傾向
世帯構成	3世代世帯が多い傾向	夫婦と子ども世帯が多く、 一人暮らし世帯が 少ない傾向	一人暮らし世帯・ ひとり親世帯が 多い傾向

※「多い」「少ない」は、絶対値としてではなく残差分析の結果として有意差があるものであることに注意されたい。

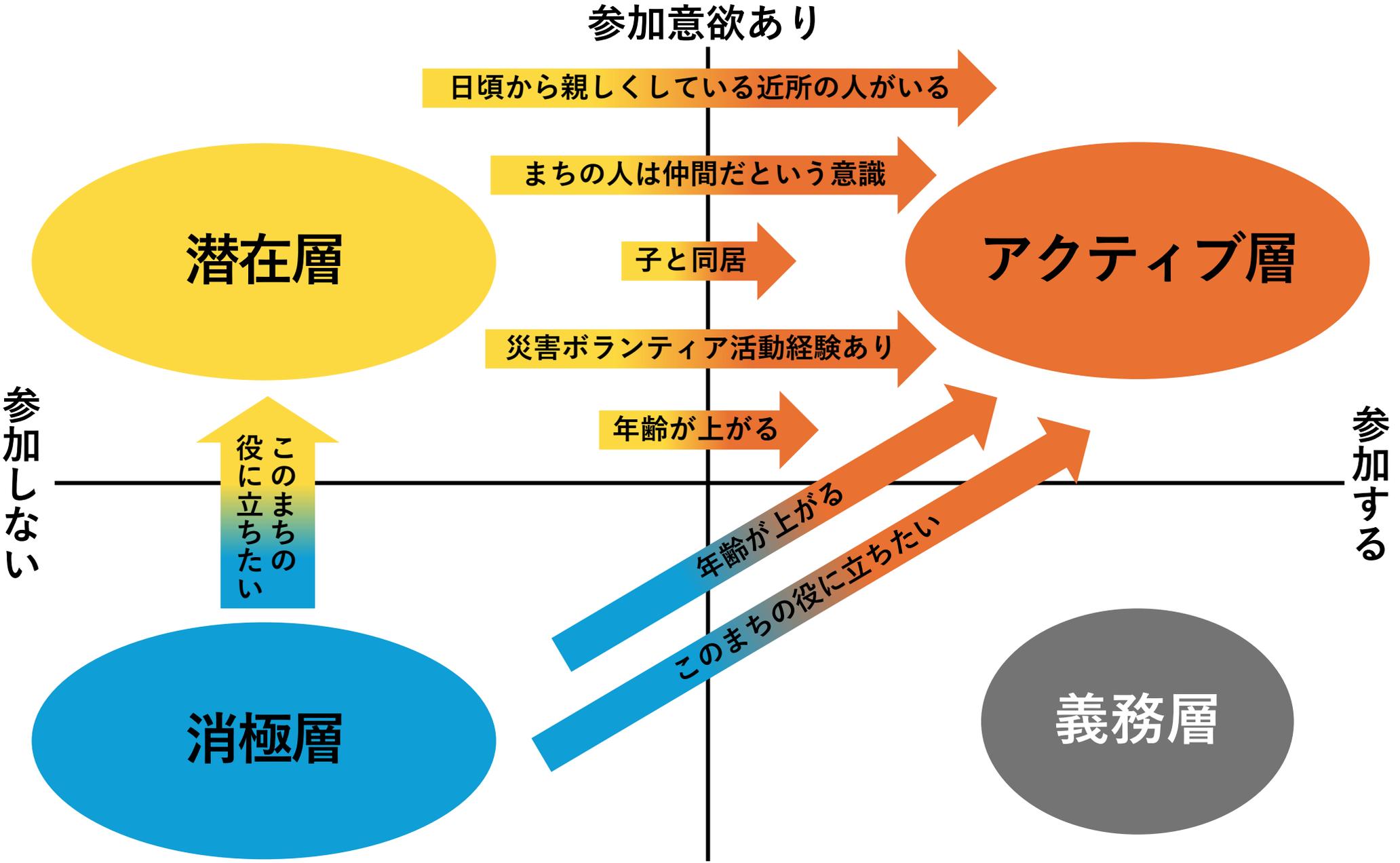
ロジスティック回帰分析

年齢や収入等（＝説明変数）から

購入する/しない等（＝目的変数）の**確率**を予測する



4 各層の傾向まとめ～ロジスティック回帰分析でオッズ比に有意であった変数～



※矢印について、長さや太さの違いに意味はありません。また、層の変化を確定させるものでもありません。

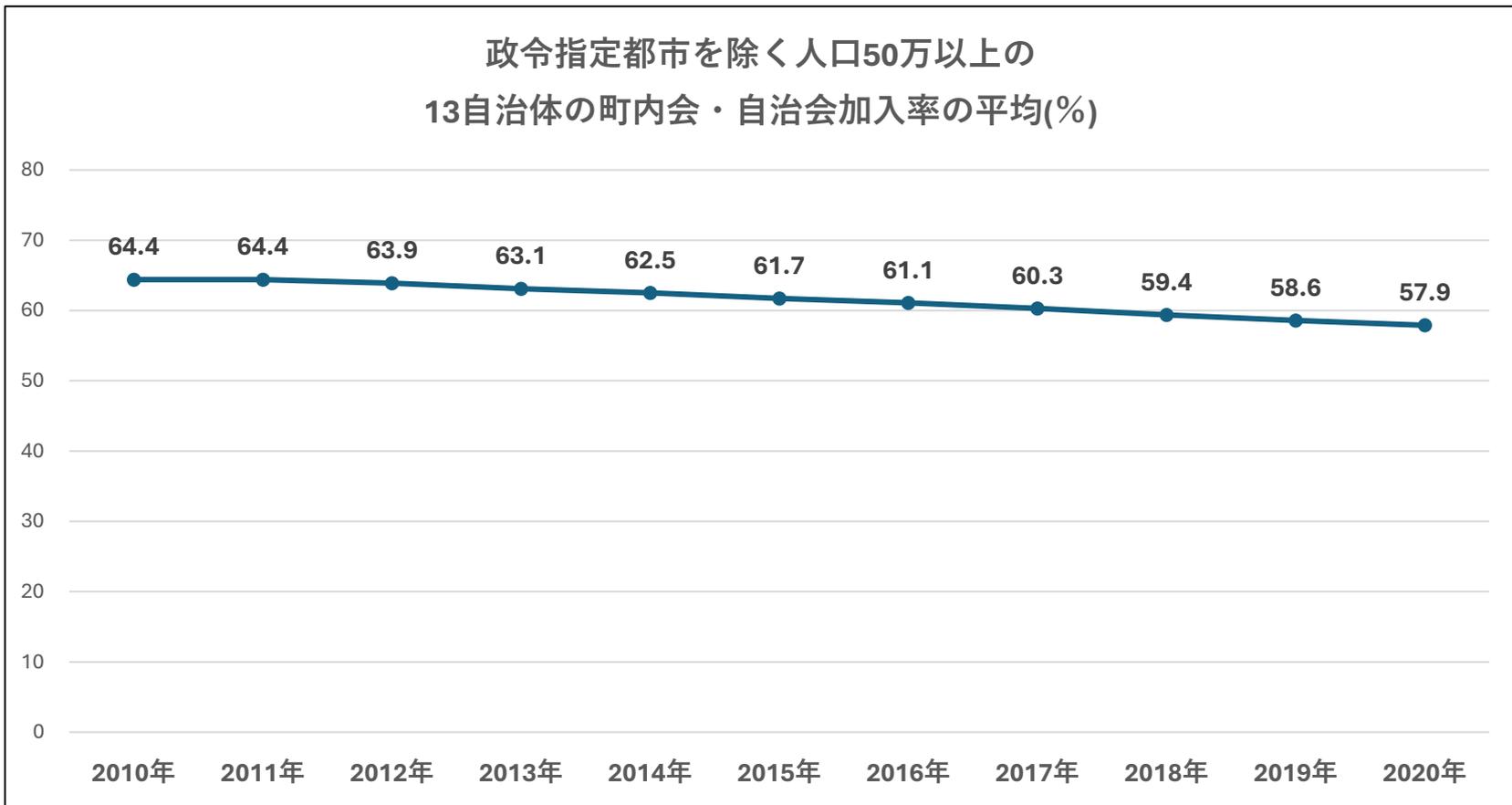
世田谷区民の町会・自治会の 認知と加入認識

せたがや自治政策研究所特別研究員
鈴木 颯太

3-1 研究の背景①

● 研究の背景

近年、全国的に町会・自治会の加入率の低下が懸念されており、世田谷区においてもその例外ではない。



総務省 コミュニティに関する研究会,2022,「地域コミュニティに関する研究会 報告書」
https://www.soumu.go.jp/main_content/000819371.pdf (2026/01/08 取得) より報告者作成

3-1 研究の背景②

● 世田谷区内の町会・自治会役員からみえる町会・自治会非加入者

町会が主催する**イベント**に多くの人がきてくれることはうれしいが、来てくれる人の全員が町会員というわけではない。町会費を払ってくれている町会員が恩恵を得られるように、(イベント時に)町会員だけが引ける福引券を配布した。**こうしたことを契機に町会に入りたいという人もいないわけではないが、決して多くはない。**
(2023年インタビュー：B町会役員)

- ➔ 町会・自治会への加入／非加入をめぐるメンバーシップの問題
- ➔ 加入促進に向けた工夫

3-1 研究の背景③

- 「町会・自治会非加入者」には、どんな人が想定されるか。

《認知・非加入認識層》

- 住んでいるまちに町会・自治会があると認知したうえで、自身が町会・自治会に加入していないという認識している人

《非認知層》

- 住んでいるまちに町会・自治会があるのか、ないのか、認知していない人

《団体不在層》

- 住んでいるまちに町会・自治会がないと認識している人

3-1 研究の背景④

● 「町会・自治会非加入者」について考える

- 形式上の町会・自治会の加入率から非加入者像を捉えるのには限界がある。
- **町会・自治会に対する認知や、加入状況の認識**を把握できれば、各団体の加入促進活動に生かしてもらうことができる。
- 「地域生活とコミュニティに関する調査2024」からは、回答者の町会・自治会に対する認識状況を把握することができる。

➔ リサーチ・クエスチョン

「**町会・自治会に加入していないと認識している人は、
いかなる特徴を有しているのか？**」

∴ 本報告では《**認知・非加入認識層**》、《**非認知層**》に着目する。

3-2 研究の方法①

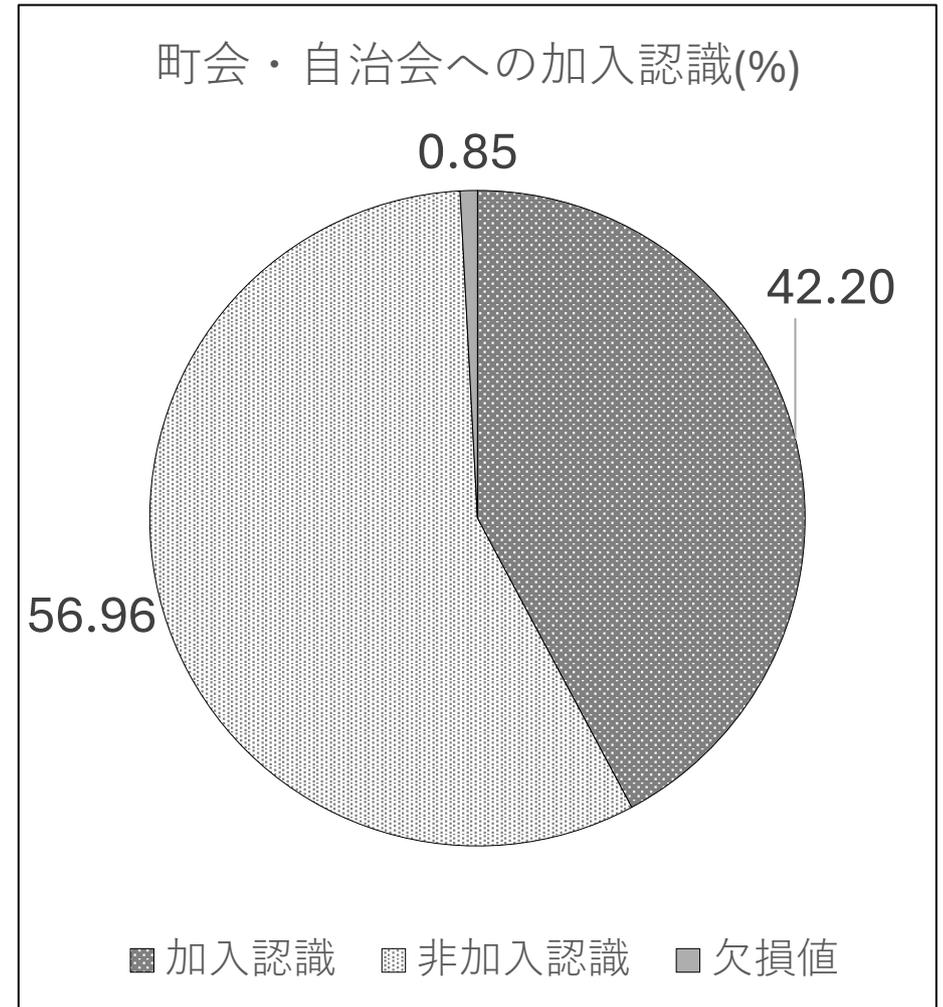
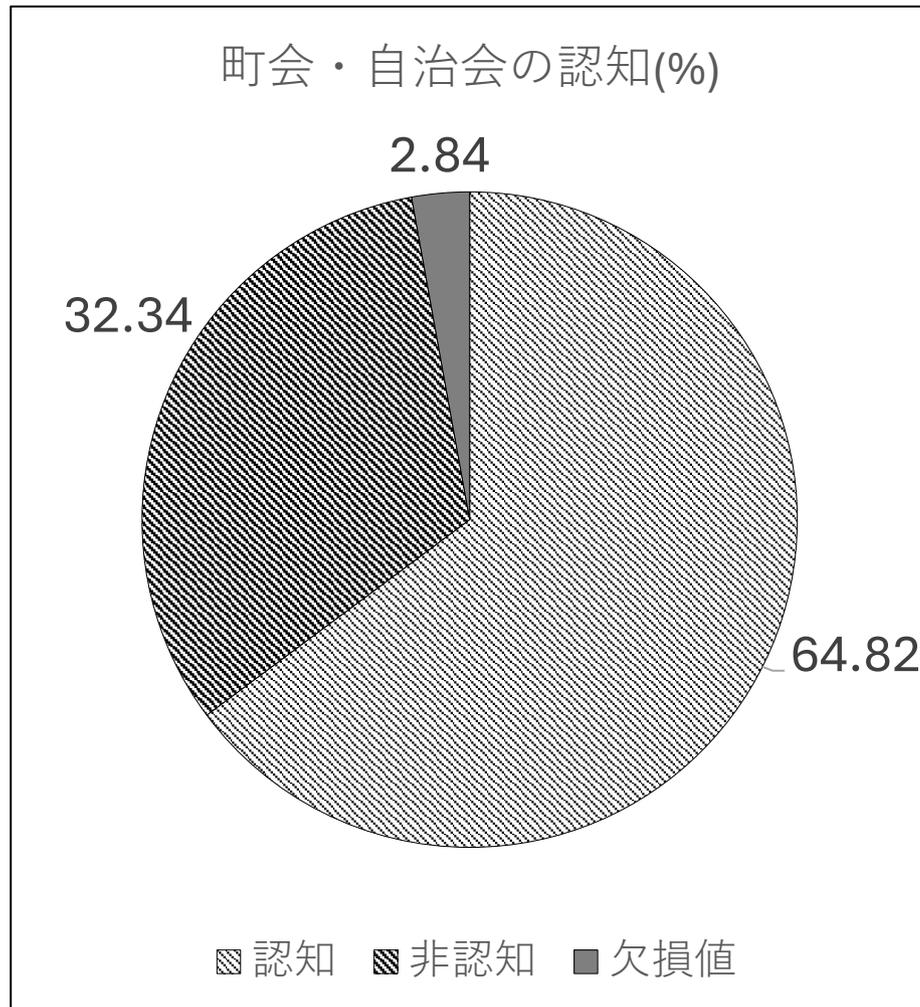
● 2024年度調査「問18」、「問18-1」回答者のカテゴリーの整理

設問から 得られる情報	ある →加入している	ある →加入していない	ない	分からない
町会・自治会の 有無の認知状況	認知		非認知	
町会・自治会への 加入認識状況	加入	非加入		

認知・
非加入認識層

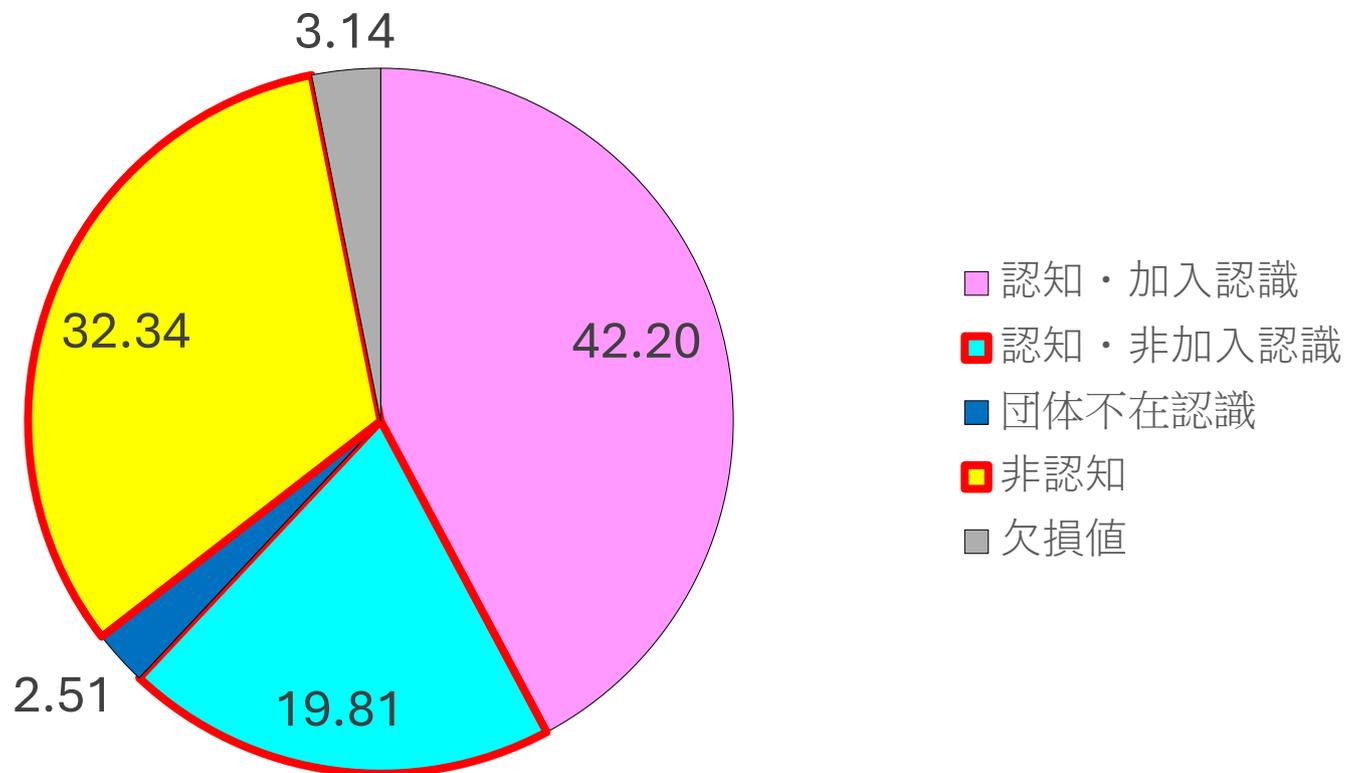
非認知層

3-3 全体における割合①



3-3 全体における割合②

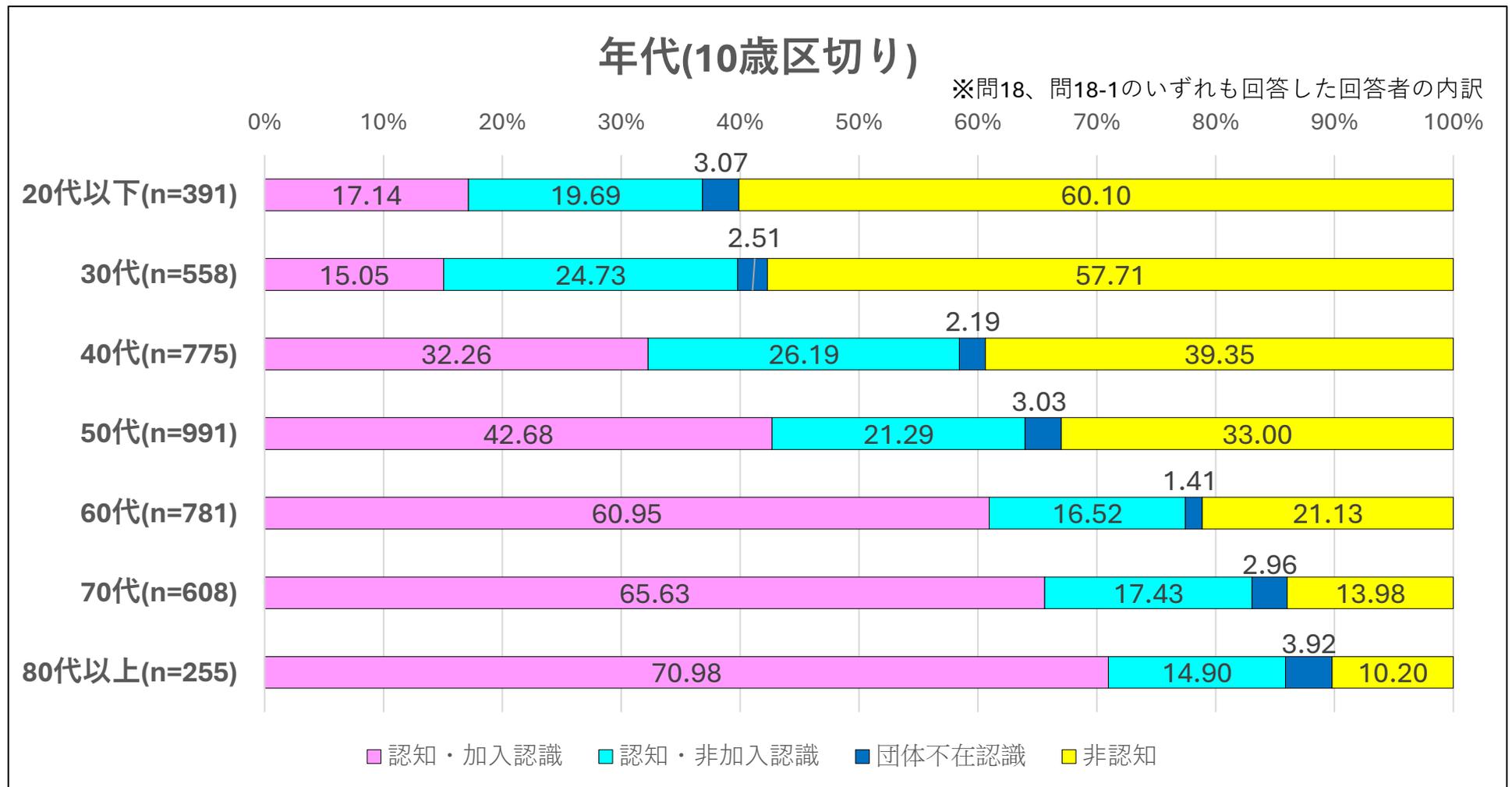
町会・自治会の認知・加入認識状況(%)



※問18、問18-1のいずれも回答した回答者の内訳

- 《認知・非加入認識層》は全体の約2割、《非認知層》は全体の約3割を占めている。
- 《非認知層》は《認知・非加入認識層》よりも割合が高い。

3-4 属性①



《認知・非加入認識層》

30～40代の世代の(現役世代)で多くなる。

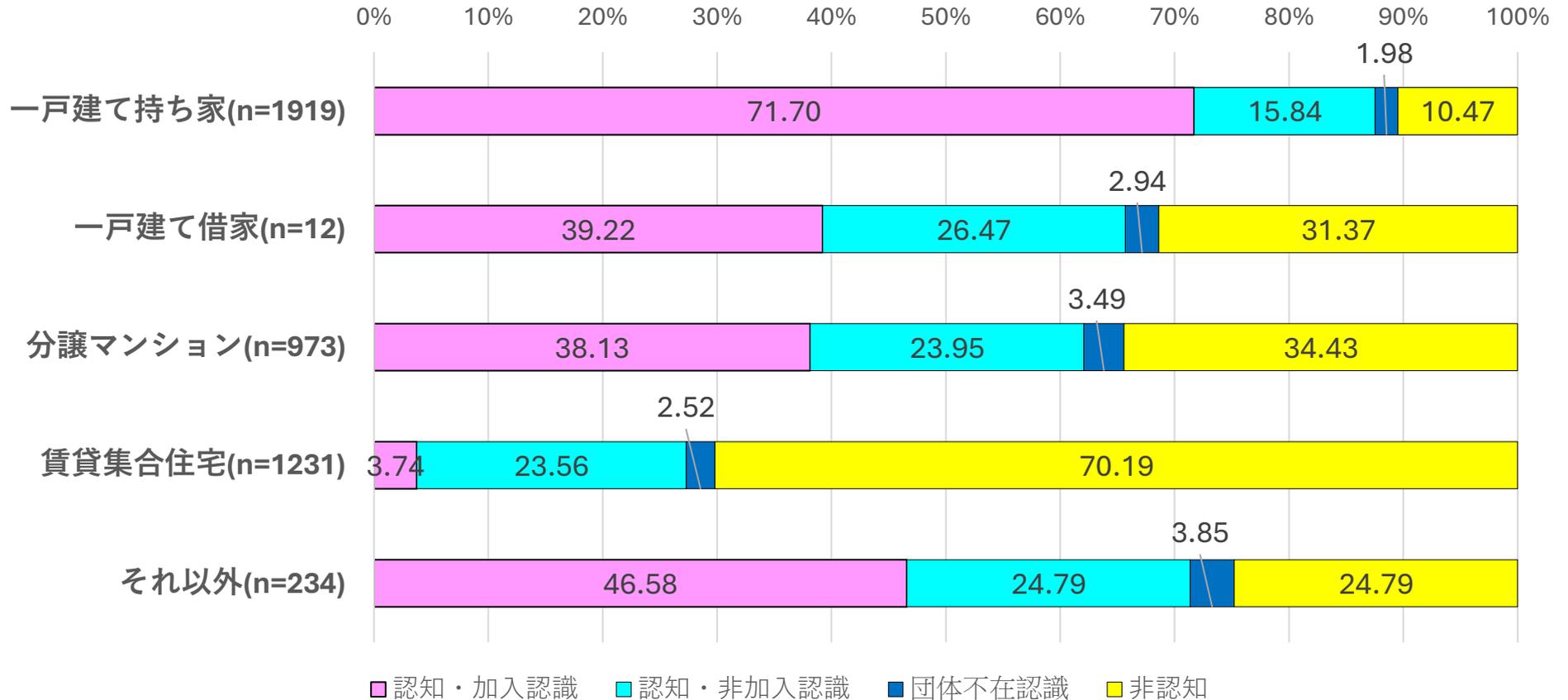
《非認知層》

若年層になればなるほど、非認知層が増える。

3-4 属性②

住居形態(%)

※問18、問18-1のいずれも回答した回答者の内訳



《認知・非加入認識層》

「一戸建て持ち家」で少ない傾向がみられる。

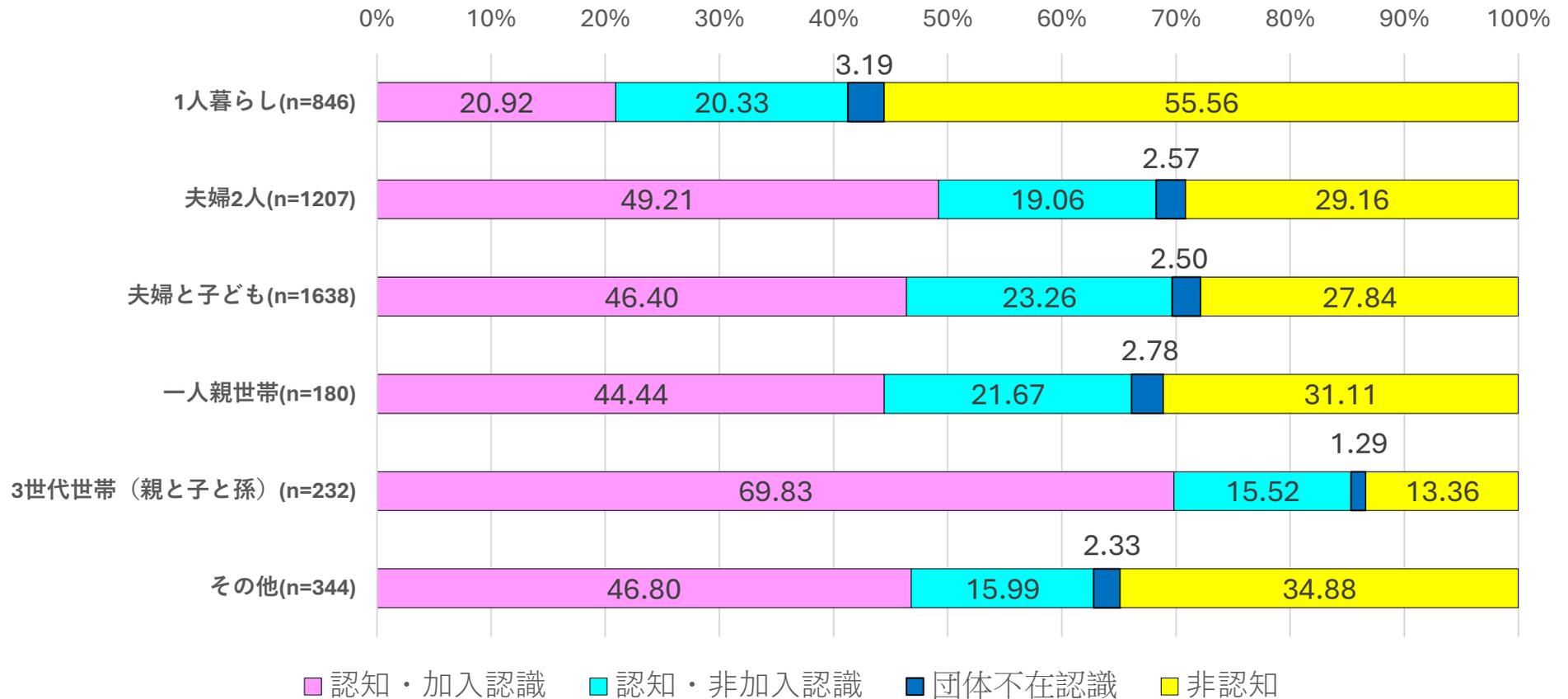
《非認知層》

「一戸建て持ち家」で少なく、「賃貸集合住宅」で顕著に高い。

3-4 属性③

世帯構成(%)

※問18、問18-1のいずれも回答した回答者の内訳



《認知・非加入認識層》

「3世代世帯」「その他」での割合が少ない傾向にある。

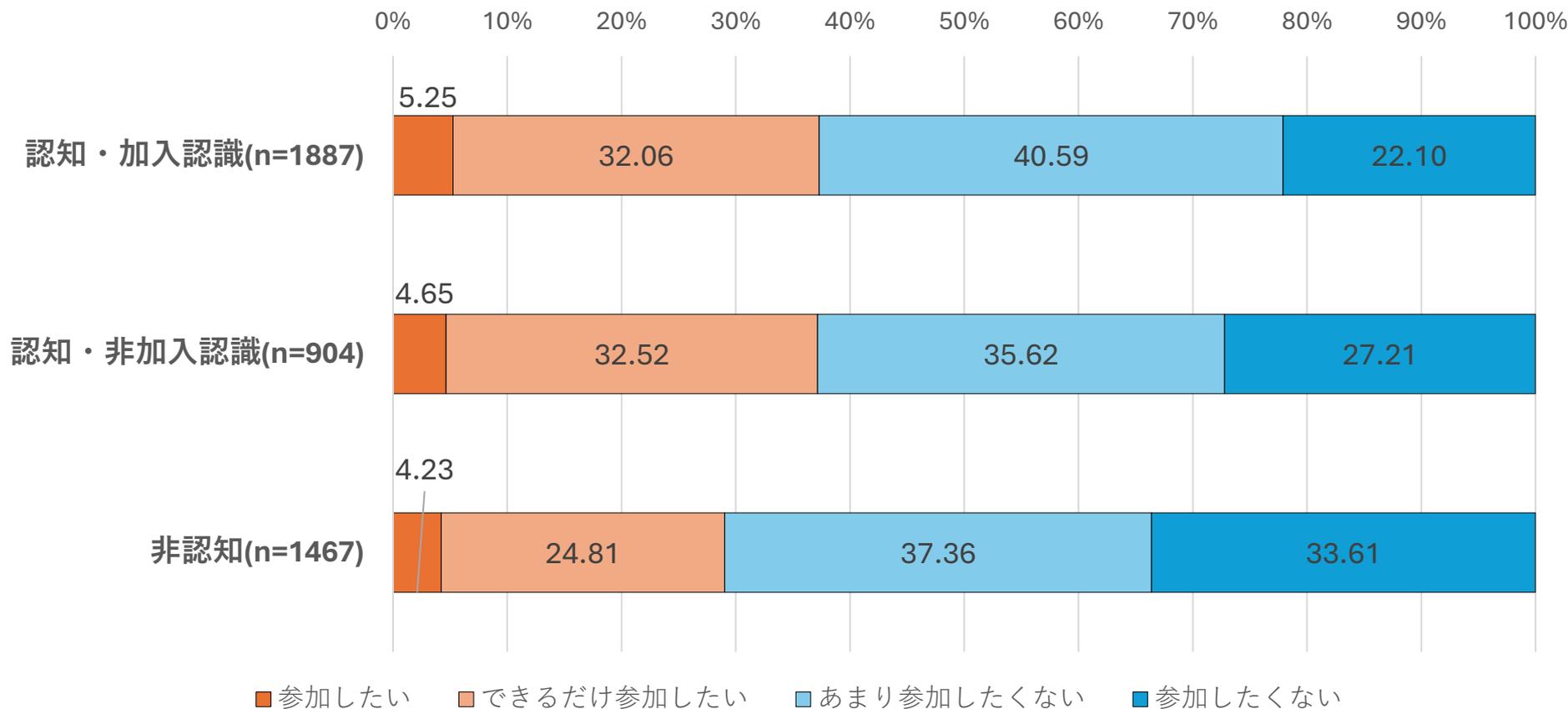
《非認知層》

「1人暮らし」で割合が高い。

3-5 意識①

公園や道路の清掃活動への参加希望(%)

※問18、問18-1のいずれも回答した回答者の内訳



《認知・非加入認識層》

「参加したい」、「積極的に参加したい」の合計は、**37.17%**になる。

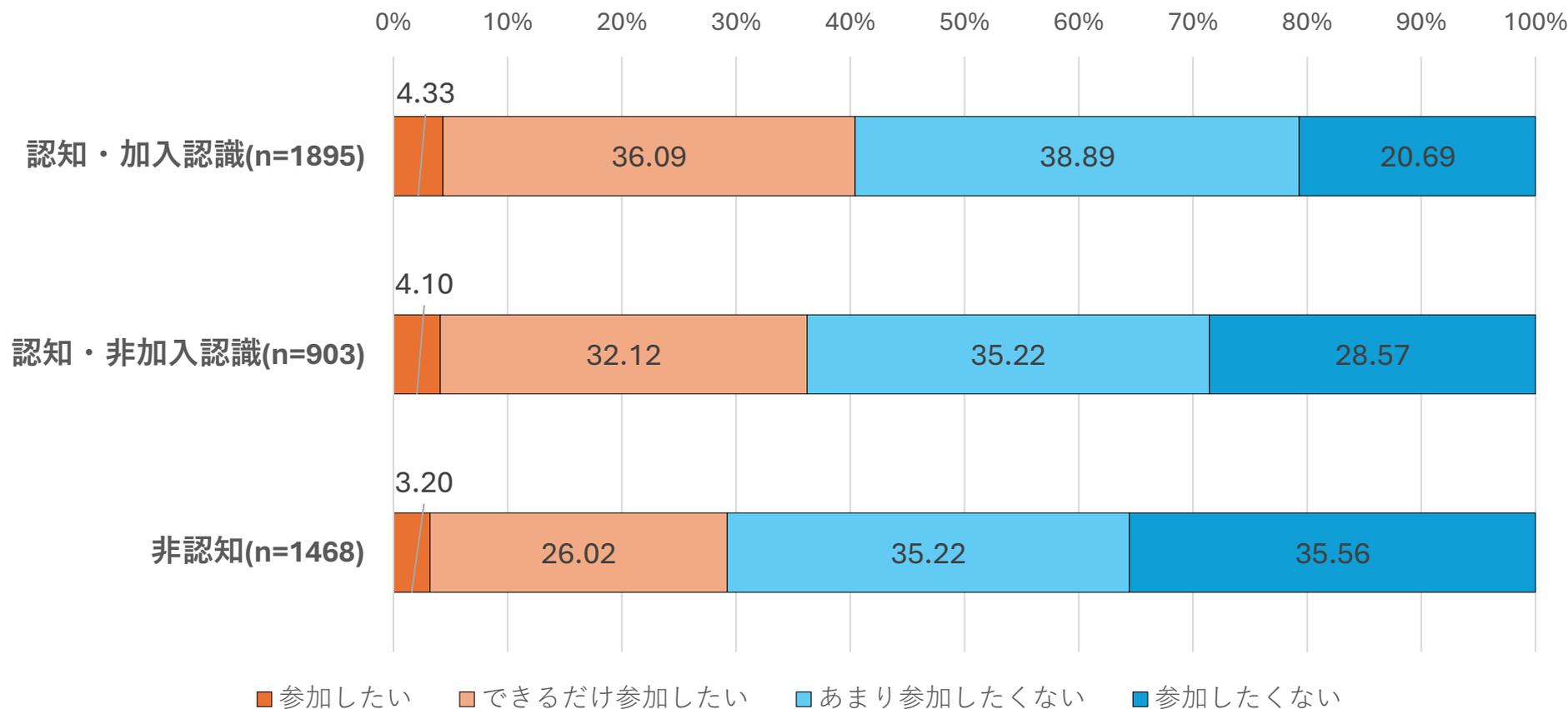
《非認知層》

「参加したい」、「積極的に参加したい」の合計は、**29.04%**になる。

3-5 意識②

防犯活動への参加希望(%)

※問18、問18-1のいずれも回答した回答者の内訳



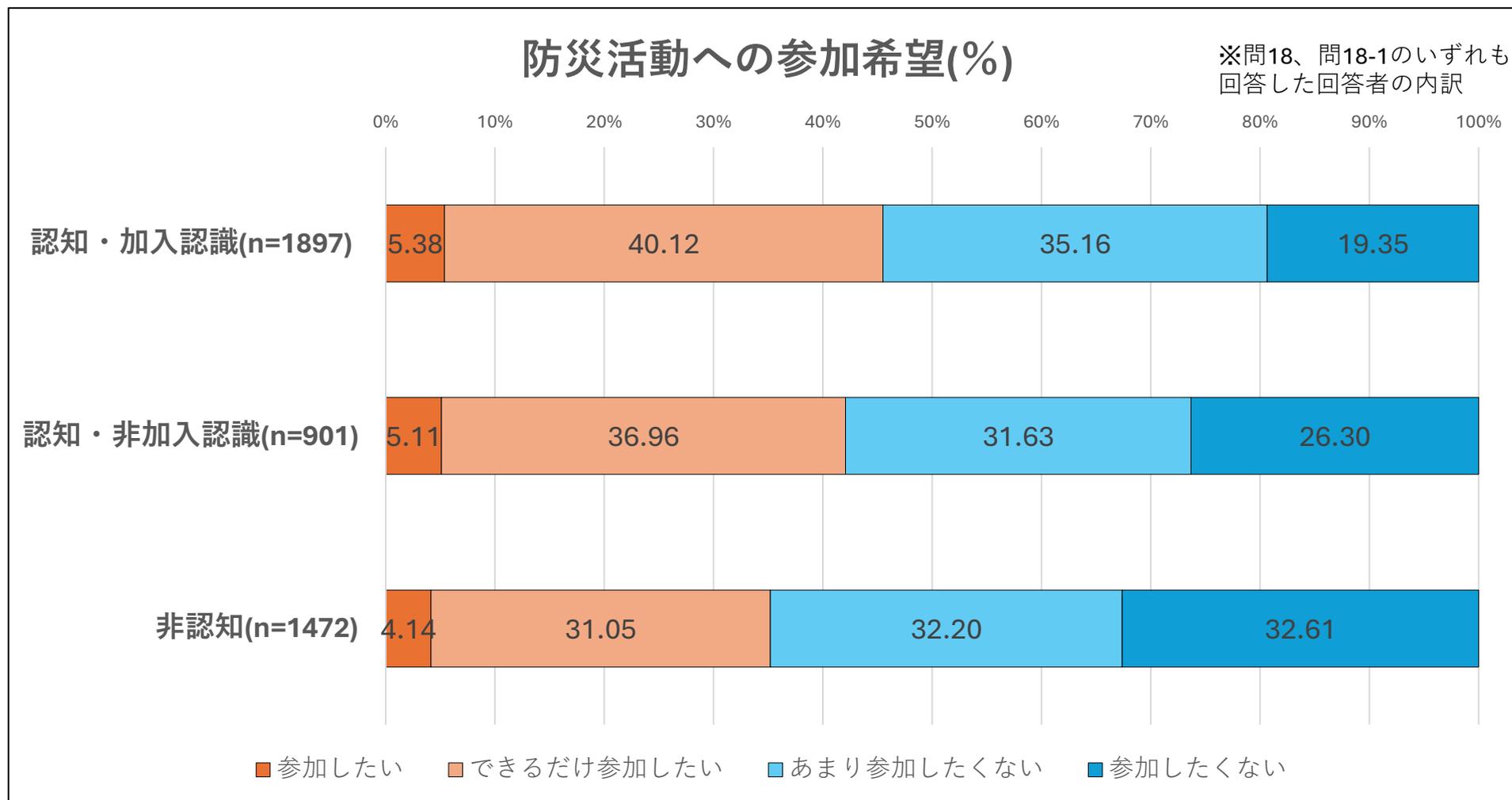
《認知・非加入認識層》

「参加したい」、「積極的に参加したい」の合計は、**36.22%**になる。

《非認知層》

「参加したい」、「積極的に参加したい」の合計は、**29.22%**になる。

3-5 意識③



《認知・非加入認識層》 《非認知層》

どちらも清掃活動や防犯活動よりも「参加したい」、「できるだけ参加したい」の合計が増加する。

● 属性

- 年代別：現役世代で多く、シニア世代で少ない。
- 住居形態：一戸建て持ち家が少なく、それ以外の形態ではいずれも25%前後で大きく変わらない。
- 世帯構成：三世代世帯で少ない。

● 地域活動に対する意識

- いずれの活動も参加希望者において、**認知・加入認識層よりも少なく、非認知層よりも多い。**
 - 認知したうえで非加入の人であっても、**地域活動に対する希望がないというわけではない。**
- 地域活動に関心がない人だけでなく、
 - * **町会・自治会に加入したくても加入までに至らない人**
 - * **町会・自治会以外の形で地域活動に参加したい人も想定できる。**

3-6 まとめ② 非認知層

● 属性

- ・ 年代別：若年層ほど町会・自治会の有無を認知していない割合が高い。
- ・ 世帯構成：1人暮らし世帯において多く、三世代世帯において顕著に少ない。
- ・ 住居形態：一戸建て持ち家が顕著に少なく、賃貸集合住宅が顕著に多い。

→ 多世代間の交流が関係しているか？

● 地域活動に対する意識

- ・ いずれの活動についても、参加希望者が認知層(加入認識層・非加入認識層)よりも少ない。
- とはいえ、いずれの活動についても非認知層は4人中1人の割合以上で、積極的な意識を持っている。

3-7 今後の課題

① 認知・非加入認識層・非認知層の実態にせまる調査の必要性

- そもそも「町会・自治会」像がどのようにみなされてきたか？
 - ・ 区内における加入率低下が問題視されてきた歴史的経緯
 - ・ 「認知しながら加入しない」状況や「認知できない」状況の発生過程

② 町会・自治会側の視点からの調査の必要性

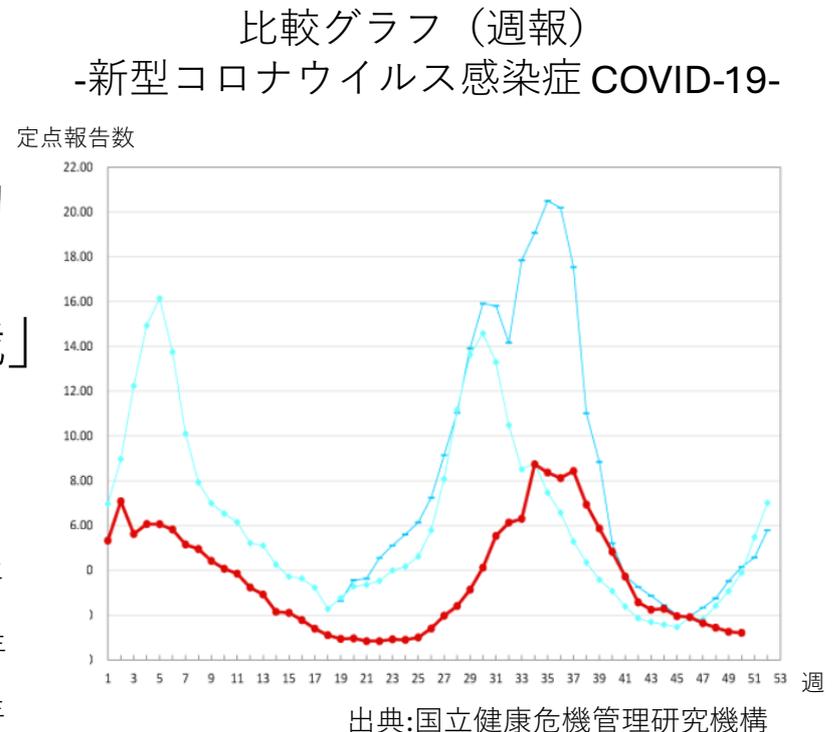
- これまでロールモデルとしての町会・自治会員の姿が、組織内でどのように受け継がれてきたのか？
- これらの引継ぎが困難になった背景には何があるのか？
 - ・ 広報活動や勧誘活動の在り方に対する意向や考え方
 - ・ 広報活動や勧誘活動の具体的な実施のされ方
 - ・ 組織のメンバーシップの在り方に関する今後の意向

世田谷区における住民と地域の 関わりの強さ（コミュニティ・ モラール）の傾向に関する分析

せたがや自治政策研究所主任研究員
堀江 博昭

研究の背景

- 令和2年1月に国内で初めて感染者が確認された新型コロナウイルスによる感染症の蔓延により、人々の交流が制限され、地域のお祭りやイベントといった地域コミュニティの活動も中止を余儀なくされた。
- 令和5年5月に新型コロナウイルスが感染法上の5類に引き下げられたことを皮切りにコロナ禍は収束し、人々の交流や地域コミュニティの活動も再開したことから、区民の地域への「参加意欲」や「愛着」、「仲間意識」も回復していることが推察される。



研究の目的

地域への「参加意欲」「愛着」「帰属感情」といったコミュニティ意識（コミュニティ・モラル）について

- ① コミュニティ・モラルはコロナ禍から本当に回復しているのか
- ② そもそも、コミュニティ・モラルは区民のどのような「人とのつながり」や「行動」に影響されているのか

以上2点を検証するのが本研究の目的である。

「住民と地域の関わりの強さ」

(鈴木 広 社会学者・九州大学名誉教授)

※モラル (士気) ≠モラル (規範)

コミュニティ・モラルの構成

要素	概要
認知的要素 【知識】	まちの人が互いに協力しているという認知など
感情的要素 【帰属感情(愛着)】	まちの人との 仲間意識 やまちに対する 愛着 など
意志的要素 【参加意欲】	このまちのために 役に立ちたい という気持ちなど

※ 【】内はせたがや自治政策研究所での言い換え

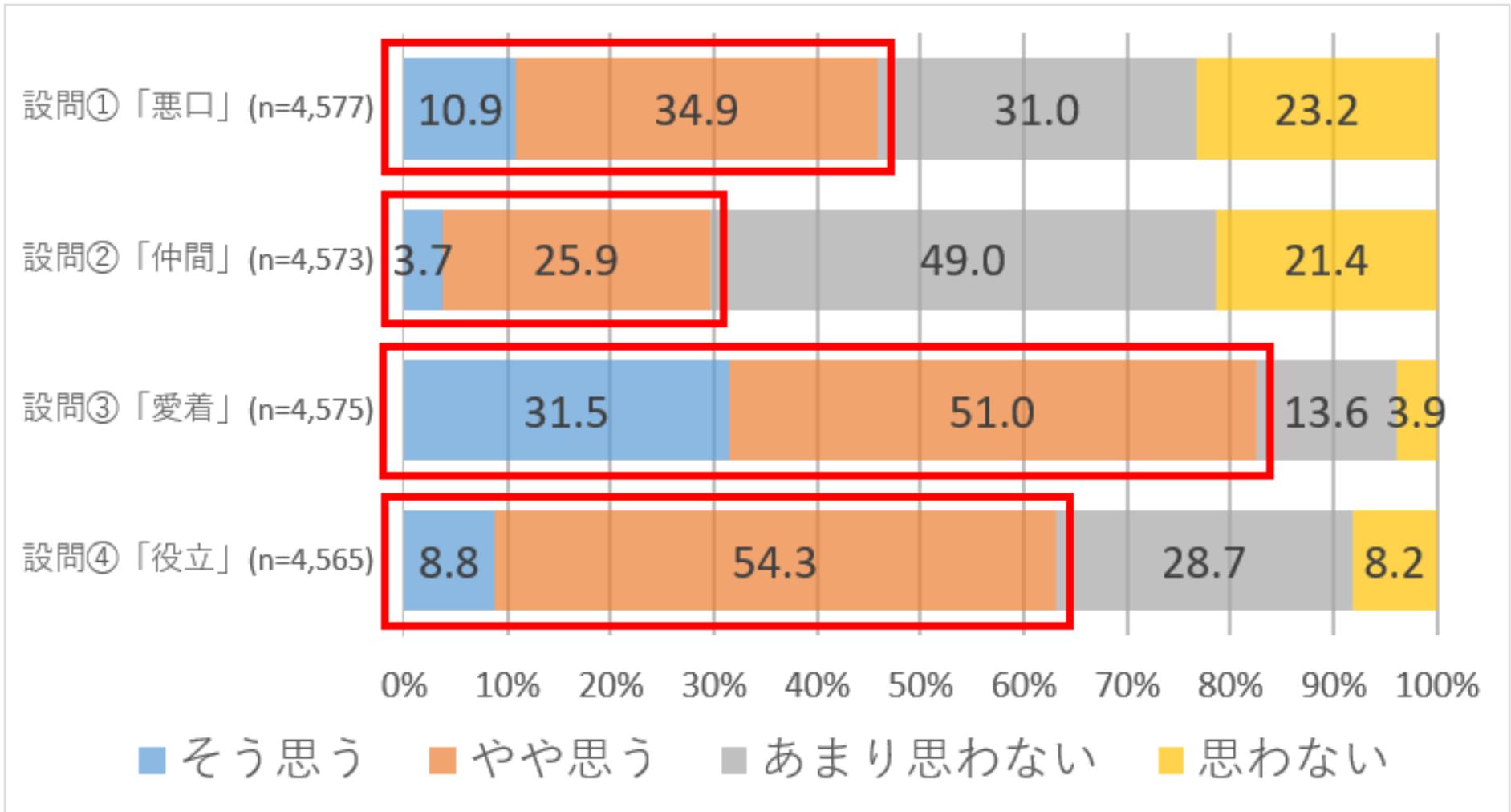
せたがや自治政策所における調査

「地域生活とコミュニティに関する調査」設問一覧
(2009年・2021年・2024年)

要素	設問	略称
帰属感情(愛着)	人からこのまちの悪口を言われたら、何か自分の悪口を言われたような気がする。	設問①「悪口」
帰属感情(愛着)	このまちの人たちはみんな仲間だという気がする。	設問②「仲間」
帰属感情(愛着)	このまちに対して愛着がある。	設問③「愛着」
参加意欲	このまちのためになることをして何か役に立ちたい。	設問④「役立」

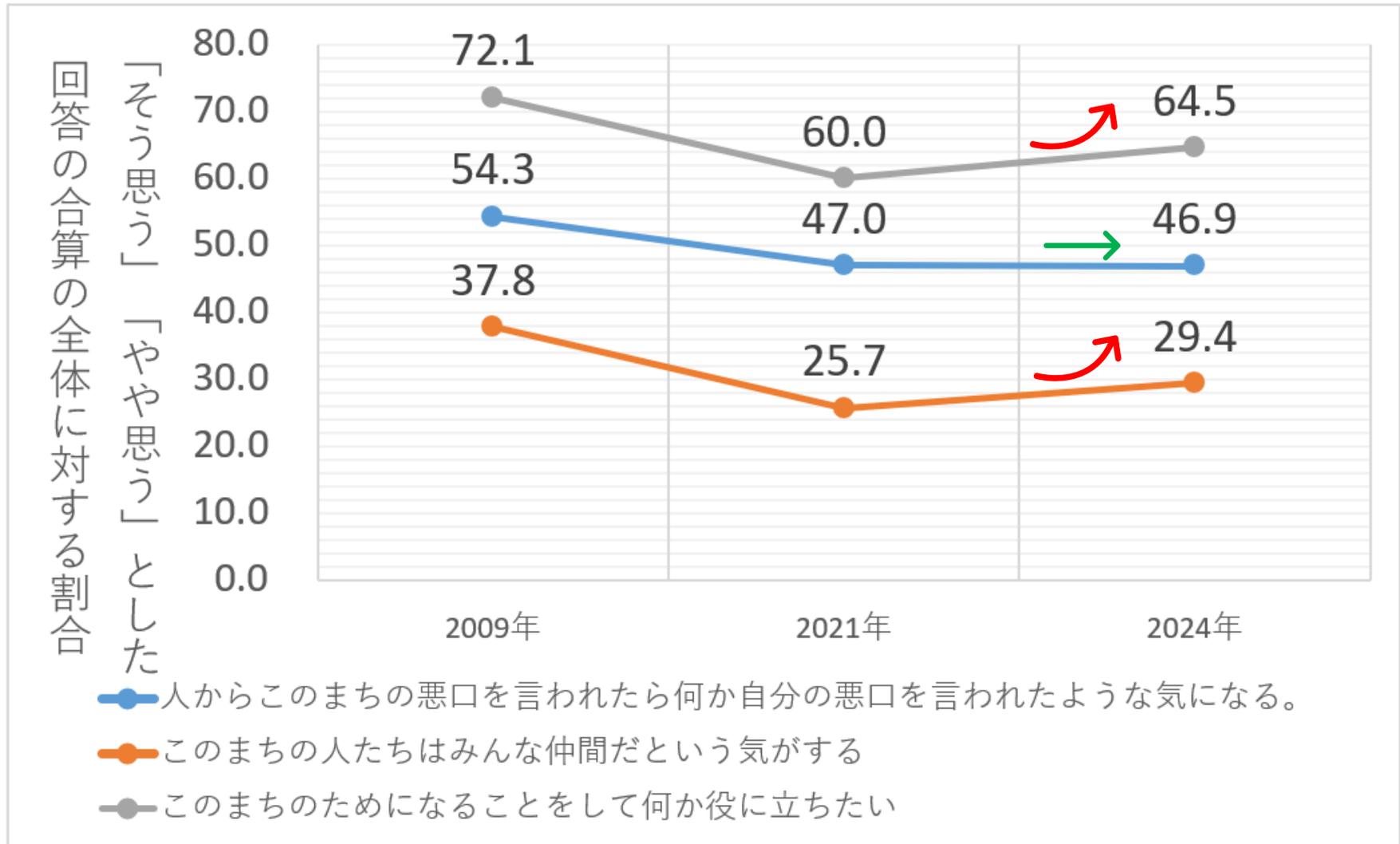
※設問③のみ2024年から追加

コミュニティ・モラルに関する設問の回答割合



※2024年調査の結果

目的① コミュニティ・モラルはコロナ禍から回復しているのか

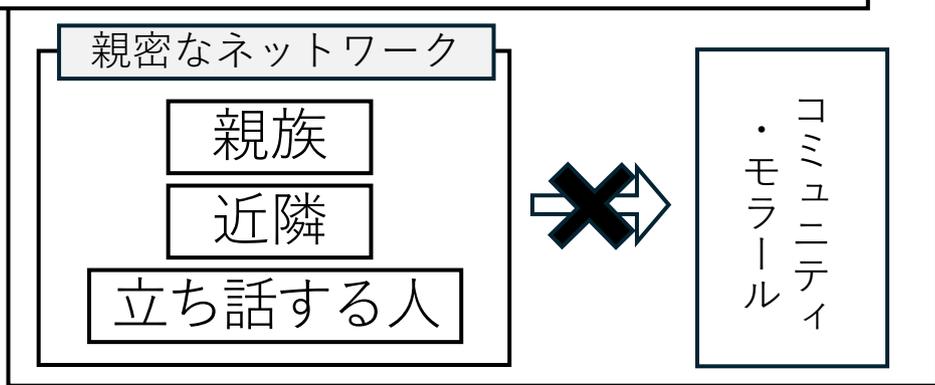


※各調査の年代を合わせるため、30～74歳までの回答に限定して集計

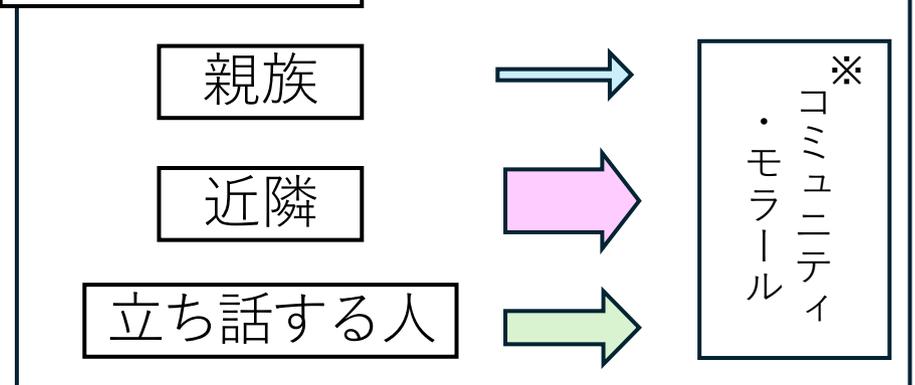
目的② コミュニティ・モラルはどのような「人とのつながり」や「行動」との影響があるのか

- 「近隣とのつながり」とは影響があり、強さの違いもあるのではないかな。

研究所での先行研究 (せたがや自治政策研究所,2011)



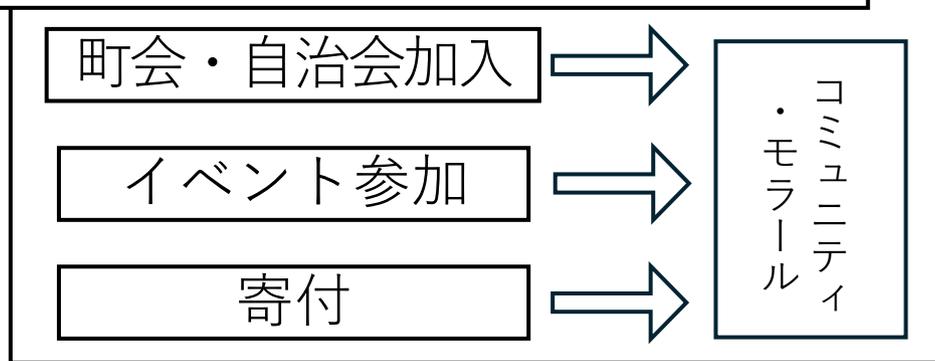
今回の研究



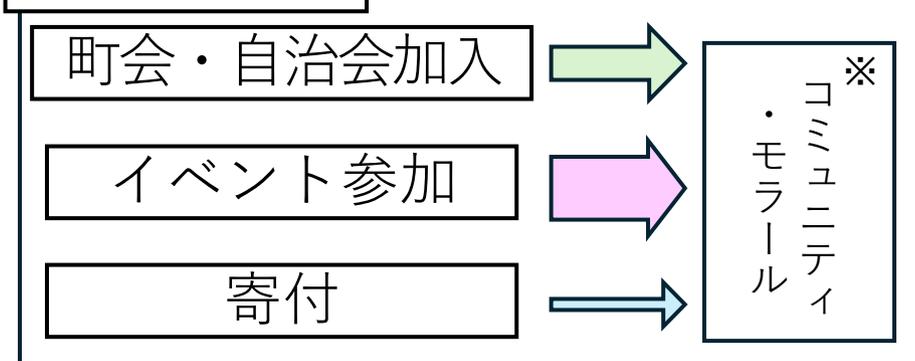
※設問を個別に分析

- 「行動」ごとに影響力の強さの違いがあるのではないかな。

研究所での先行研究 (金澤・小山,2021)



今回の研究



※設問を個別に分析

⇒ 影響の有無の確認や強さを比較するため、**重回帰分析**を行う。

回帰分析とは

まちへの愛着度
(コミュニティ・モラル)

Y軸

③その時の傾き (回帰係数) の
大きさによって2つの項目の
影響の強さが表される

②「まちへの愛着度」が上がる
(もしくは下がる)

要因が複数あるから
「重」回帰分析

①「立ち話をする人の数」が1増える

X軸

④この影響の強さを異なる要因同士で
比較できる

立ち話をする人の数
お祭りに参加する行動の強さ
町会・自治会への加入の有無

分析結果

「人とのつながり」に関する設問	設問①「悪口」		設問②「仲間」		設問③「愛着」		設問④「役立」	
	回帰係数	p値	回帰係数	p値	回帰係数	p値	回帰係数	p値
日ごろから何かと頼りにし、親しくしている親族の数	0.037		0.037		0.070	**	0.039	
日ごろから何かと頼りにし、親しくしている近隣の数	0.013		0.106	**	0.089	**	0.094	**
立ち話す人の数	0.104	**	0.184	**	0.119	**	0.131	**
家に上がって話をする人の数	-0.047	*	0.010		-0.002		0.028	
調整済みR2乗値	0.014	**	0.085	**	0.049	**	0.051	**

「行動」に関する設問	設問①「悪口」		設問②「仲間」		設問③「愛着」		設問④「役立」	
	回帰係数	p値	回帰係数	p値	回帰係数	p値	回帰係数	p値
町会・自治会への加入	0.035		0.057	**	0.042	*	0.005	
地域のお祭り・イベントへの参加	0.133	**	0.205	**	0.194	**	0.213	**
ボランティア、NPO、市民活動団体への加入	-0.032		0.030		0.022		0.099	**
NPOやボランティア団体への寄付の経験	0.089	**	0.064	**	0.070	**	0.111	**
ふるさと納税(他の自治体を含む)の経験	0.019		0.028		-0.061	**	0.037	
調整済みR2乗値	0.040	**	0.100	**	0.076	**	0.151	**

** p < .01, * p < .05

分析結果のまとめ

目的①：コミュニティ・モラル（**住民と地域の関わり**の強さ）はコロナ禍から本当に回復しているのか

⇒**仲間意識や参加意欲は回復しているといえる。**

目的②：そもそも、コミュニティ・モラルは区民のどのような「**人とのつながり**」や「**行動**」に影響されているのか

⇒**コミュニティ・モラルに関する設問に全てに対して、有意に影響を与えている「人とのつながり」や「行動」は以下の3つ。**

「**立ち話をする人の数**」

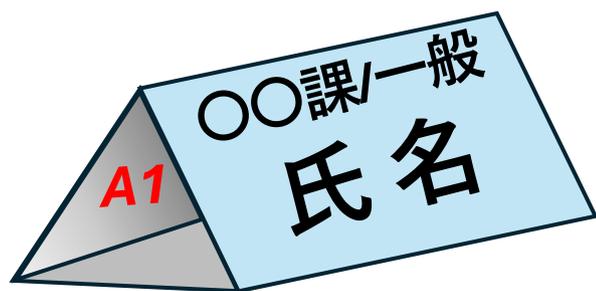
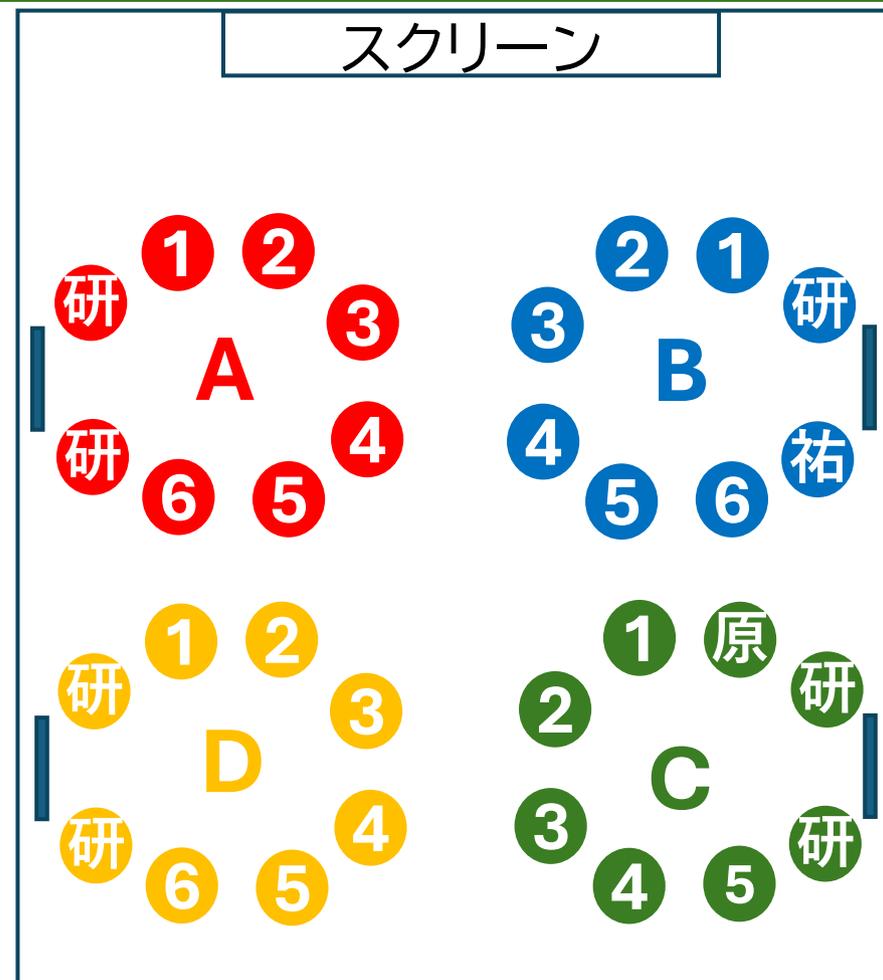
「**地域のお祭り・イベントへの参加**」

「**NPOやボランティア団体への寄付の経験**」

1-3

講評・質疑

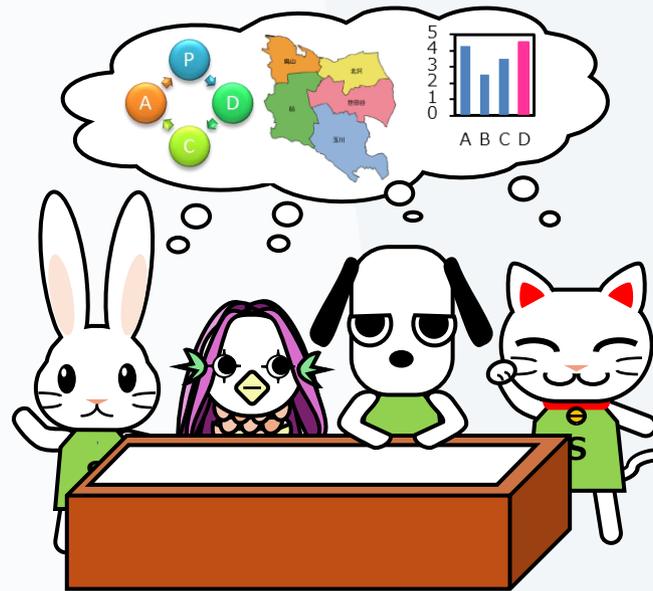
休憩(10分)



参加者の皆さまへ
席番号記載の用紙の裏面を使って
名立ての作成をお願いします

2-1

グループワーク



ワークの流れ

テーマ

「地域活動に参加したいという思いを持ちながらも参加していない人たちが、実際に地域活動に参加するようになるために、どんな仕組みや工夫が考えられるか。」

要因を考える

地域活動に参加したいという思いを持ちながらも参加していない理由は？

20分

アイデアを出す

実際に地域活動に参加するようになるための仕組みや工夫とは？

20分

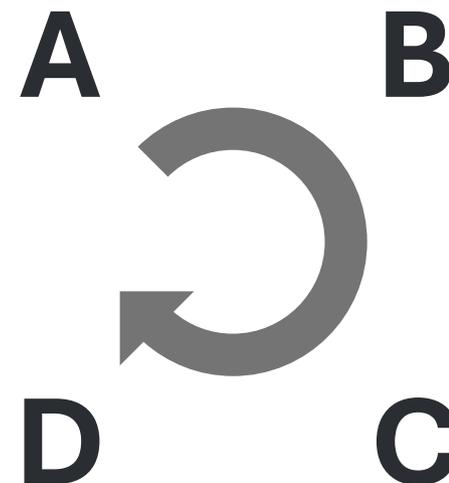
発表

各グループの意見の共有
意見交換・質疑応答

20分

グループワーク

発表の動き



発表3分 + 意見交換 3分 = 6分×3セット
質疑応答

2-2

総評

2-2

閉会

さいごに



『せたがや自治政策Vol.18』の刊行

—4月下旬刊行予定



研究活動報告会の様子をYouTubeで公開

—2月中旬公開予定



アンケートのご協力をお願い致します

—あなたの声が、力になる。